

鈴木忠雄 同  
 入谷町 二(五)  
 二(三) 同  
 同  
 一六〇〇 三、四五  
 九六・六同

合計				
所有權	四六・〇五	二五、六六	三、三三	四
賃借權	二三〇・九三	二〇、七六	五、七六	四

二 換地を交付せず且清算金を交付せざりしもの

民有地宅地十筆百六十三坪三勺、道路一筆三百三十二坪、東京市所有地道路三十筆四千五百九十八坪二合一勺、都市計畫用地一筆百六十四坪、用悪水路十五筆九百三十五坪七合五勺、下水事業用地一筆七坪八合七勺、東京府所有地道路二筆十五坪五合八勺、内務省所有地道路二十六筆六百三十九坪二合一勺、内務省用地一筆二十三坪四合二勺、合計六千八百七十九坪七勺。  
 潰地充當用買收地東京市所有地五筆四百四十七坪、内務省所有地二十五筆四千九百二十三坪九合一勺、合計五千三百七十坪九合一勺。

三 所有權以外の権利又は處分の制限の指定を爲したるもの

- 一 既登記の所有權以外の権利の指定を爲したるもの地上權六件、地上權假登記二十八件、抵當權二百七件、抵當權假登記一件、賃借權一件、賃借權假登記七件あり。
  - 二 處分の制限の指定を爲したるもの所有權假登記十九件あり。
  - 三 未登記の所有權以外の権利の指定を爲したるもの賃借權千六百八十六件あり。
- 備考 右の外係争中の賃借權一件、借地法第六條該當地四十四件あり。

第二節 清算金

第一 土地補償金を以て徴收清算金に充當

本地區に於ける換地處分は昭和四年六月二十日内務大臣の認可あり、而して清算金徴收額は四十五萬

第三十九地區 甲 整地

八千六十九圓三十六錢にして人員六百七十人なり、又土地補償金は同月二十五日補償審査會に於て百十九萬八千六百九十六圓八十錢人員千五百十六人と決定せられ同月二十八日其の通知を受けたり、依て同年七月六日補償金を以て徵收清算金に充當處分を爲したりしが、同月二十三日補償審査會に於て補償金の變更を爲したる旨同月二十六日通知を受けたるに因り、同月二十七日充當處分の變更を爲したり、充當計算左表の如し。

摘要	徵收清算金總額		補償金總額		補償金充當額		充當後徵收清算金		充當後交付金	
	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員
當初充當面	四六、〇九・五	六七〇、二一九、六六・八〇	一、五六三三〇、二一・七六	六七二、七九〇・〇	二、三七八八、五九・〇四	一、二九五				
變更充當面	四六、〇九・五	六七〇、二一九、六六・八〇	一、五六三三〇、二〇・二〇	六七二、七九〇・〇	二、三七八八、五九・〇四	一、二九五				
差引増△減	—	—	△九・五	—	九・五	—	—	—	—	—

第二 換地處分に關する通知

換地處分に關する通知書は豫め換地説明書及補償金清算金臺帳に依り之を作成し置き、前項充當處分を爲したる後直に之が送達に著手し、市内居住者に對しては人夫を使用して之を送達し、其の他に對しては書留郵便を以て之を送達せり。

第三 清算金の徵收

本地区に於ける徵收清算金總額は四十五萬八千六十九圓三十六錢なりしが、内三十三萬四十圓二十錢に對し土地補償金を以て充當したる結果、各納付義務者より直接徵收すべき清算金は、差引十二萬八千二十九圓十六錢にして人員二百三十七人なり。

二十九圓十六錢にして人員二百三十七人なり。

右徴收人員二百三十七人中分納申請資格者即ち百圓以上納付すべきもの百三十人なるも、内官公署分四件を除き差引百二十六人に對し、分納申請期限を昭和四年七月二十五日とし、同月六日附を以て換地處分に關する通知書と共に分納申請書用紙を送付し置きたる處、右期限内に申請書を提出したるもの六十人にして、資格者總數に對し四割七分に過ぎざりしを以て、同月二十九日未提出者六十六人に對し更に同年八月十日迄に提出方注意を促せし處、右期限内に提出したるもの二十九人ありて結局申請者合計八十九人となり、資格者總數に對し七割となりたり。

依て右申請書を審査の上、昭和四年九月六日分納許可の決定を爲し、同日各申請者に對し許可書を送付せり。

本地區に於ける清算金徴收事務は下谷區役所に於て取扱ふものにして、昭和四年七月より之が徴收を開始せり。

#### 第四 清算金の交付

本地區に於ける清算金は總額四十五萬八千六十九圓三十六錢にして、昭和四年七月二日下谷區役所に於て之が支拂を開始し、同六年三月末日迄に交付せし金額四十五萬三千三百七十二圓九十三錢なり。

### 第六章 土地補償金

#### 第一 補償金の算定並決定

本地區に於ける宅地減歩率は一割九分九厘九五三四四なりしを以て、特別都市計畫法第八條に依り補

償金の交付を要する爲、同法第五條の規定に依る補償金の配當割合を定むるに當り、幹線街路敷充當用として國に於て買收したる土地及小公園敷充當用として市に於て買收したる土地に對しては該土地の指數相當額とし、其の他の土地に對しては補償總指數より前記指數を控除したる指數を各整理前の權利指數に按分するものとし、之を土地區劃整理委員會に諮問して決定せり。

次で前記配當割合に基き左表其の一に依り計算したる補償總指數を整理前各權利に配當して原案を作成の上、昭和四年六月二十二日補償審査會に提出し、同月二十五日原案の通決定せられ同月二十八日其の旨通知を受けしが、其の後補償金に誤謬ありしことを發見せしに依り之が變更案を作成の上、同年七月二十二日補償審査會に提出し、同月二十三日原案の通決定せられ同月二十六日其の旨通知を受けたり。而して要交付補償金總額は百十九萬八千六百九十六圓八十錢にして人員千五百十六人なり。

補償金計算調書

(其の一)

摘	要	員	數
整理前宅地	總面積		一二九、〇八三坪八〇
整理後宅地	總面積		一〇三、二七三坪〇五
潰地	面積		二五、八一〇坪七五
整理前宅地總面積に對する潰地面積の割合			〇・一九九九五三四四
整理前宅地の一割に相當する面積			一二、九〇八坪三八

整理前宅地總面積に對する潰地面積の割合  
 整理前宅地の一割に相當する面積

〇・一九九九五三四四  
 一一、九〇八坪三八

補償	整理前宅地總面積	補償	整理前宅地總面積	同平均坪當指數	指數	整理前宅地總面積	補償	整理前宅地總面積	補償	整理前宅地總面積
額	數	額	數	額	數	額	數	額	數	額
一、九七六、二二六圓八八	七、〇五七、五九六個	一、九七六、二二六圓八八	七、〇五七、五九六個	〇圓二八	五、四七個	一、九七六、二二六圓八八	七、〇五七、五九六個	一、九七六、二二六圓八八	七、〇五七、五九六個	一、九七六、二二六圓八八

(其の二)

特別都市計畫法施行令 第二十九條該當中指數 相當額配當のもの	面積	整理前指數	補償指數	補償指數	差引整理前宅地總指數	差引整理前宅地總指數	補償金配當率	補償金配當率
五、三七〇坪九一	五、三七〇坪九一	二、六六六、三二二個	二、六六六、三二二個	二、六六六、三二二個	七四六、五七〇圓一六	六、七、九四七、一六四個	四、三九一、二七四個	六、四、〇六二、二八〇六八

第三十九地區 甲 整地

六二一

特別都市計畫法施行令  
第二十九條該當中按分  
率に依り配當のもの

差引要交付

面積  
整理前指數  
補償金額  
補償金額

所有權  
借地權

五、〇四五坪三二  
二九坪二〇  
一、七六五、三七四個  
一一〇、二一四個  
二〇、八五九圓九二  
一、一九八、六九六圓八〇

第二 補償金國市負擔區分

本地區に於ける補償金國市負擔區分に關する計算は左記調査表の如く、國に於て六十四萬二千七十圓八十錢(人員千三百四十七人)市に於て五十五萬六千六百二十六圓(人員百六十九人)を負擔するものなり。

國市負擔區分調査表

(其の一)

補償	面積		國市負擔	面積	指數	金額	備考
	指數	金額					
國	二、九〇一・七坪	七、〇七、五九六圓	八、七五五・〇三坪	四、七八、〇六一圓	一、三三、八五七・〇八圓	二、二七九、五五五圓	整理前面積 總指數 平均坪 國又は公 有地指數
	一、九七六、二六八圓	八、七五五・〇三坪					
市	七〇、六三、四八六圓	一、三三、八五七・〇八圓	四、一六七・三四坪	二、二七九、五五五圓	六三八、二六九・八〇圓	一、三三、八五七・〇八圓	五、〇四五坪三二 二九坪二〇
	七〇、六三、四八六圓	一、三三、八五七・〇八圓	二、二七九、五五五圓	六三八、二六九・八〇圓	七〇、六三、四八六圓	五、〇四五坪三二 二九坪二〇	一、七六五、三七四個 一一〇、二一四個 二〇、八五九圓九二 一、一九八、六九六圓八〇

(其の一)



第三 各權利者に直接交付すべき補償金

要交付補償金總額は百十九萬八千六百九十六圓八十錢なりしが、内三十三萬四十圓二十錢を徵收清算金に充當したる結果、各權利者に直接交付すべき補償金は八十六萬八千六百五十六圓六十錢(人員千二百九十五人)にして、之が國市負擔區分に依る内譯左表の如し。

區分	補償金決定額		充當額		直接交付額	
	金額	人員	金額	人員	金額	人員
國負擔	六四一、〇七〇・八〇	一、三三七	一六三、八三五・〇〇	五五	四七六、二三五・八〇	一、二五六
市負擔	五五、六六〇・〇〇	一九	二六、二〇五・二〇	二	三九〇、四〇〇・八〇	一七
計	一、一九、六六六・八〇	一、五五六	三三〇、〇四〇・二〇	五七	八六八、六五六・六〇	一、二七三

第四 補償金の交付

本地區に於ける市負擔補償金總額五十六萬六千六百二十六圓中、徵收清算金に充當したる金額十六萬六千二百五圓二十錢は、市會計規程に基き振替手續に依り昭和四年八月十二日支出し、直接交付額三十九萬四百二十圓八十錢は下谷區役所に於て昭和四年六月二十五日之が支拂を開始し、同五年十二月十一日迄に全部其の支拂を了したり。

國負擔補償金總額六十四萬二千七十圓八十錢中、徵收清算金に充當したる金額十六萬三千八百三十五圓は同四年八月十七日下谷區役所に納付し、直接交付額四十七萬八千二百三十五圓八十錢は同月之が支拂を開始し、同六年三月末日迄に全部其の支拂を了したり。



## 第七章 登記及地價配賦

### 第一節 登記

#### 第一 代位登記

土地に關し代位登記を爲したる件數は土地表示更正及變更五十六件、土地名義人表示更正及變更六件、土地分合筆二百二十四件、所有權保存三件なり。

#### 第二 區劃整理登記

土地囑託筆數は整理前四百九筆、整理後五百八十三筆にして、建物囑託件數は要登記のもの九百八十九件、現存を認め難きもの百九十件なり、囑託書を東京區裁判所二長町出張所に提出したるは昭和四年九月二十八日にして、登記の完了は昭和四年十月三十一日なり、而して登記の停止期間は換地處分告示の日即ち昭和四年六月二十日より約四箇月に亘れり。

### 第二節 地價配賦

#### 第一 地價配賦前の處理

本地區の土地區劃整理施行申告、工事著手届及工事完了届を厩橋稅務署長に提出したる年月日左の如し。

一 土地區劃整理施行申告 昭和三年九月二十六日

一 工事著手届 同 日

一 工事完了届 同 四年六月二十一日

#### 第二 地價配賦

第三十九地區 甲 整地

地價配賦案は昭和四年七月三十日之が作成を了し、八月二日厩橋稅務署長に提出し、同十一月二十日地價配賦許可の指令を受けたり。

本地區整理前有租地の地價總額は四十四萬七千四百九十二圓二十三錢にして、整理に依り減少したる有租地面積に對する控除地價額は九萬九千六百五十六圓二十五錢なり、之を前述の地價總額四十四萬七千四百九十二圓二十三錢より控除したる三十四萬七千八百三十五圓九十八錢は即ち整理後有租地に對し配賦せらるべき地價總額とす、而して整理後各筆評定指數千個當配賦地價額は五圓五十九錢九七八五なり。

地價配賦算定に關する數字を示せば左の如し。

一 整理前有租地面積

整理前面積	整理後面積	差引減步面積
二四、五三・九〇 <sup>坪</sup>	九六、六五・三三 <sup>坪</sup>	二七、六七・六六 <sup>坪</sup>

二 整理前有租地坪當平均地價

整理前有租地總面積	同上總地價	坪當平均地價
二四、五三・九〇 <sup>坪</sup>	四七、四九・二三 <sup>円</sup>	三・五九八 <sup>円</sup>

三 控除せらるべき地價

有租地差引減步面積	坪當平均地價	控除地價
二七、六七・六六 <sup>坪</sup>	三・五九八 <sup>円</sup>	九六、六五・三三 <sup>円</sup>

四 整理後評定指數千個當配賦地價額

整理後有租地總指數	配賦地價額	指數千個當配賦地價額
六二、二五、九五 <sup>個</sup>	三〇七、八三・九六 <sup>円</sup>	五・五九七八五 <sup>円</sup>

次に整理前後の土地を有租地、免租地及公共用地の區分に從ひ地目別に掲記すれば左の如し。

整理前後土地面積及筆數調

府有免租地	市有免租地										區有免租地	民有免租地	有租地	區分地目			
	計	公用地	水園路	業用地	社會事	墓地	業用地	下水事	道水路	用水路				都市計畫用地	公立學校敷地	計	墓地
100.50	6,974.36	3,411.00	1,781	95.37	731.00	77.77	4,577.95	977.36	266.00	3,575.64	3,575.00	3,077.00	588.00	111,011.35 <sup>坪</sup>	44	從前の土地	筆數
1	5	4	3	1	1	1	3	1	2	5	18	16	2	96,542.46 <sup>坪</sup>	44	整理後の土地	筆數
	5,101.04			49.47	451.37					3,577.06	11,104.09	11,044.09		96,542.46 <sup>坪</sup>	685	面積差引	增
	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	20	20	1	15,479.87 <sup>坪</sup>	685	面積差引	減
100.50	6,473.33	3,411.00	1,781	45.90	279.44	77.77	4,577.95	977.36	266.00	1,342	1,470.91	939.2	588.00	115,479.87 <sup>坪</sup>		面積差引	減
1	4	3			1	1	3	1	2	3	4	4	1	27		筆數差引	增
1	5	4	3			1	3	1	2	3	2	1	2	1		筆數差引	減

第三十九地區 甲 整地

合	公共用地					國有免租地				
	計	溝渠	公園地	堤塘	道路	計	寺地	社地	官有地	內務省用地
一五、八六·四	一三、〇五·四	三、六八·九		五八·二	七、八八·五	五、五七·七	四八·〇	一八五·八〇	九六·三	四、八七·五
五二						六	二	一	三	三
一五、六九·三	五三、四四·三〇		五七·七		五、九六·五	五八·四〇	三九·八	一六·五		
七二						三	二	一		
四、五九·四	四、五六·五		五七·七		四、〇八·三〇					
四、七五〇·六	四、二七·三	三、六八·九		五八·二		五、〇九·三	七·二五	一七·五	九六·三	四、八七·五
二七										
四						五			三	三

## 乙 建物其の他の工作物移轉

### 第一章 整理前の建物

#### 第一節 建物状況

本地區整理前の宅地總面積は十二萬九千八十三坪八合にして、之に所在する建物の總棟數は六千五百八棟、此の延坪數八萬三千三百九十四坪七合八勺なり、而して建物一棟當り宅地面積は十九坪八合三勺、同建物延坪數は十二坪五合なり。

前記總棟數の内移轉を要するもの六千四百八十五棟にして、爾餘の二十三棟は換地の關係に依り其の儘据置き得る不要移轉建物なり、之を構造別に示せば左の如し。

種別	建物棟數		内		譯	
	棟數	延坪數	要移轉建物 棟數	延坪數	不要移轉建物 棟數	延坪數
木造建物	六、四九五	八、二八二・六 <sup>坪</sup>	六、四七二	八、〇一八・七 <sup>坪</sup>	二三	一、二六三・九 <sup>坪</sup>
石造平家建	二	九・〇〇	二	九・〇〇	一	一
同階建	二	二四・三〇	二	二四・三〇	一	一
煉瓦造平家建	五	一五・三四	五	一五・三四	一	一
同階建	一	二四・〇〇	一	二四・〇〇	一	一

第三十九地區 乙 建物其の他の工作物移轉



第三十九地區 乙 建物其他の工作物移轉

其事	住務	旅宿	下業	商	料店	飲店	觀場	娛場	武術道	質屋	浴場	理髮店	周旋業	運送業	工場	倉庫	自動車	其他	
八	三	一	一	一	一	一	一	一	二	二	二	二	三	三	五	九	四	五	一六
〇・二	五〇・四八	〇・〇五	〇・〇二	二四・二一	〇・〇二	二・三三	〇・〇二	〇・〇六	〇・〇三	〇・〇七	〇・一九	一・二八	〇・〇八	〇・一四	九・六五	〇・六三	〇・〇八	二・四九	
一五〇・美	四〇、六七・二一	一七二・六六	七二・五〇	一八、九六・二〇	五二・二五	二、一九・〇五	二九・九五	七〇・五八	三四・六三	二二七・九二	七九一・一四	一、三六・六九	七九・四六	一六三・六四	二、八三・八五	四八六・六二	七六・三三	六五・八四	
一八・七九	一〇・八九	五〇・三三	七二・五〇	二二・二二	五二・二五	一四・五四	二九・九五	一七・六四	一七・二二	二二・六二	六五・九二	一四・九二	一五・八九	一八・一八	一八・九二	二一・八六	一五・三六	四・〇七	

六三一

計	六四八五	100.00	八〇、三〇・六	三・三五
---	------	--------	---------	------

第二節 地區告示後の建築

大正十三年三月二十七日東京都市計畫土地區劃整理施行地區の告示後に於て、假設建築物として新築、改築、増築等の爲、東京府知事に許可申請を爲したるもの建物千八百八十三棟、内許可せられたるもの八百九十七棟、許可せられざりしもの二百八十六棟なり、而して前記の如く不許可の指令を受けたるにも拘らず新築、改築、増築等を爲し事業施行の必要上移轉を要したるもの二百六十七棟なり。

第二章 移轉計畫

本地區は之を七十一箇の移轉群に分ち、昭和二年一月より建物及工作物の現状調査に著手し、調査済の移轉群より逐次移轉工法並工程を定め、同年十二月全部の移轉計畫を終了せり。  
而して要移轉建物六千四百八十五棟に對する移轉工法を見るに、曳方一部除却に依るもの三千四百八十九棟にして五割三分を占め、之に次ぐは移築一部除却の二千六十一棟にして三割一分に相當し、他は曳方、移築、据置一部除却の順位なり、之を構造別に示せば左の如し。

種別	工法別棟數				計
	曳方	一部除却	移築	一部除却	
木造建物	五三〇	三、四八九	三八八	二、〇六一	四
					六、四七二



木造建物	五〇	三、四八九	三八八	二、〇六一	四	六、四七二
------	----	-------	-----	-------	---	-------

石造平家建	二					二
同二階建	一		一			二
煉瓦造平家建	一		四			五
同二階建	一					一
鐵筋コンクリート造二階建	一					一
土藏造二階建	二					二
計	五三八	三、四八九	三九三	二、〇六一	四	六、四八五
要移轉總棟數に對する百分比	八・二	五・八〇	六・〇六	三・七九	〇・六	一〇〇・〇〇

前記計畫に依るときは、要移轉建物六千四百八十五棟此の延坪數八萬百三十坪八合六勺は、整理後に於て其の棟數に増減なきも、坪數に於ては二割一分三厘の縮少を來し六萬三千坪七合四勺となる、之を建物の構造別に對照すれば左の如し。

種別	整理前建物		整理後建物		差引減	
	棟數	延坪數	棟數	延坪數	棟數	延坪數
木造建物	六、四七二	八〇、〇八・七二 <sup>坪</sup>	六、四七二	六二、八八・六〇 <sup>坪</sup>		一七、二〇・一二 <sup>坪</sup>
石造平家建	二	九・〇〇	二	九・〇〇		
同二階建	二	二四・三〇	二	二四・三〇		
煉瓦造平家建	五	一五・三四	五	一五・三四		

第三十九地區 乙 建物其の他の工作物移轉

第三十九地區 乙 建物其の他の工作物移轉

煉瓦造二階建	一	二四・〇〇	一	二四・〇〇	一	
鐵筋コンクリート造二階建	一	二二・〇〇	一	二二・〇〇	一	
土藏造二階建	二	二七・五〇	二	二七・五〇	二	
計	六、四八五	八〇、三〇・八六	六、四八五	六三、〇〇・四四	一七、三〇・三三	

六三四

建物の移轉實施期間を昭和二年六月より同三年十月迄の一年五月とし同二年に於て千六百二十一棟、同三年に於て四千八百六十四棟の工事を完了することに豫定したり。

第三章 移轉手續

第一節 移轉命令

昭和二年二月十九日第一次移轉命令として、千束町二丁目の一部第一移轉群の建物五十一棟に對し移轉命令四十通、同通知六十五通を發し、爾來引續き發令に努め同年十二月二十三日入谷町の一部第六十六移轉群の發令を最後とし、要移轉建物六千四百八十五棟の内、協議並直轄移轉に依る二十七棟を除きたる六千四百五十八棟及工作物に對し、移轉命令五千五十五通、同通知五千八百二十五通を發し茲に全部の發令を終へたり。

第二節 協議並直轄移轉

第一 協議移轉

本地區に於て協議移轉を爲したるもの建物二十六棟、工作物三百十七件、動産八件あり、内建物十一

## 第一 協議移轉

### 第二節 協議並直轄移轉

本地區に於て協議移轉を爲したるもの建物二十六棟、工作物三百十七件、動産八件あり、内建物十一棟、工作物三件は官公署の所有にして、事業實施の便宜上協議移轉を爲したるもの、其の他の建物十五棟、工作物三百十四件、動産八件は民有にして、何れも移轉促進の爲特に急施を要したるものなり。

### 第二 直轄移轉

本地區に於て直轄移轉を爲したるもの民有建物一棟、工作物一件あり、内建物は移轉命令發令後他人の換地に無斷築造を爲し、撤去方を交渉するも應ぜざりしもの、又工作物は建物の移轉實施に當り新に發見したるものにして、之が移轉方に關し交渉したるも應ぜざりしに因るものなり。

## 第四章 損害補償

### 第一節 補償金の決定

移轉命令の發令に次で移轉損害補償金の算定に著手せり、乃ち昭和二年四月建物及工作物の新築費並動産の種類、數量及營業休止に因る損害等の現地調査に著手、其の調査に基き移轉損害補償金の算定を爲し、同年五月以降逐次補償審査會の審議決定を経たり、而して前記現地調査は翌三年六月迄に終了し、又補償審査會に於ける補償金の決定も回を重ねること四十六回(變更案の決定を含む)にして同年六月一先終了したが、其の後に至り尙既決補償金の變更を要するものあり、之が審議決定を爲すこと八回に及び、翌四年二月全部の決定を了せり、尙補償審査會の決定を要せざるものに付ては、調査算定すると共に關係者と協定する等夫々處理を了したり。

補償審査會に於て決定したる補償金及其の他の移轉料總額は左表の如く、三百七萬五千六百三十九圓七十六錢にして、内國負擔額四十二萬三千三百九十五圓六十七錢、市負擔額二百六十五萬二千二百四十四圓九錢なり。

建物棟數	延坪數	補償金	區分金額		坪當
			内	譯	
六、四八五	八〇、三〇・八六 <sup>坪</sup>	三、〇七五、三九・七六 <sup>円</sup>	建物移轉料 工作物移轉料 造作移轉料 動産移轉料 休業補償 雜費 計	一、九六二、九〇九・二八 <sup>円</sup> 二四一、四三・二二 八六、一九八・八三 二五、七四二・二五 三二、五〇〇・三六 三三、八四・九二 三、〇七五、三九・七六	二四・五〇 <sup>円</sup> 三・〇一 一・〇七 三・二四 三・八九 二・七七 三八・六

因に前表建物及工作物移轉料算定の基準となりたる新築費を示せば左の如し。

種別	棟數	延坪數	一棟當延坪數	新築費	坪當單價
木造建物	六、四七二	八〇、〇八・七二 <sup>坪</sup>	一二・三六 <sup>坪</sup>	四、三三九、九六・二七 <sup>円</sup>	五・九六 <sup>円</sup>
石造家建	二	九・〇〇	四・五〇	一、七五二・〇〇	一九四・六
同階建	二	二四・三〇	一二・二五	七、二八四・三三	一九九・六

同	石	造	二	階	建	二	二	九・〇〇	四・五〇	一、七五二・〇〇	一九四・六
同	平	家	二	階	建	二	二	二四・三〇	二二・二五	七、二八四・三三	一九九・六

煉瓦造平家建	五	一五・三四	五・〇六	二、三八〇・三三	一五・一六
同 二階建	一	二四・〇〇	二四・〇〇	六、四八〇・〇〇	二七・〇〇
鐵筋コンクリート造二階建	一	二三・〇〇	二二・〇〇	五、四〇〇・〇〇	四五・〇〇
土藏造二階建	二	二七・五〇	二三・五	七、四二五・〇〇	二七・〇〇
工 作 物	一	一	一	七四一、七五・二	九・六
計	六、四八五	八〇、三〇・八六	二三・三五	五、〇二二、四四・四四	六三・五五

備考 工作物の坪當單價は其の新築費を建物總延坪數にて除したるものなり。

### 第二節 補償金の決定通知と其の交付

移轉損害補償金の決定通知は昭和二年五月より開始し、爾來決定の都度之が通知を爲し、同三年六月を以て一先終了せるも、其の後に至り補償金の一部に變更を來したるものあり、之が變更通知は同四年二月に及びたり。

補償審査會に於て決定したる補償金及協議其の他の方法に依りたる移轉料は、昭和二年五月より之が交付を開始し、同六年三月末日迄に交付せし金額三百七萬二千三十圓七十九錢にして、内國負擔額四十二萬三千三百九十五圓六十七錢、市負擔額二百六十四萬八千六百三十五圓十二錢なり。

## 第五章 移轉實施

第三十九地區 乙 建物其の他の工作物移轉



昭和三年											
九月	十月	十一月	十二月	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月
三〇三	一、〇四〇	一、三三六	一、六五三	二	七	一	一	一	五	六	一
二、四三二	三、四七二	四、八〇八	六、四六一	六、四六三	六、四七〇	六、四七〇	六、四七〇	六、四七〇	六、四七五	六、四八一	六、四八二
二四五	四〇一	四六七	一七二	六五三	六七二	六〇五	五四	五五七	一、一三六	二	一
一、二八四	一、六八五	二、一五二	二、三三三	二、九七六	三、六四八	四、一五三	四、七七七	五、三三四	六、四七〇	六、四八一	六、四八二
三四四	三三二	二〇九	六三	一〇九	三三〇	二四七	九八五	六七四	八七	五七二	九四
一、一三七	一、三四九	一、五五八	一、六二二	一、六三〇	二、〇六〇	二、三〇七	三、一九二	三、九六六	四、七九三	五、三六五	六、二九九
二〇八	二七七	三三九	一三〇	一六三	二五五	三三五	六〇	九五〇	八四五	五四	一、二五四
二七一	五四八	八六七	九九七	一、一六〇	一、四一五	一、七五〇	二、三六〇	三、三三〇	四、一五五	四、六六九	五、九三三
六、四八五	六、四八五	六、四八四	六、四八五	六、四八五	六、四八五	六、四八五	六、四八五	六、四八五	六、四八五	六、四八五	六、四八五

第二節 代執行

移轉命令を受け指定期限を経過し、現場係員より工事實施方に付屢次誘導督勵を爲すも、容易に其の義務を果さざる爲、戒告を爲したる人員百二十二名、建物百六十一棟、工作物一件ありたり。

前記の内戒告後も尙其の義務を履行せざる爲代執行を爲したる人員八人、建物十一棟あり、其の主な

第三十九地區 乙 建物其の他の工作物移轉

る原因は借地權に關する係争の爲義務者自ら移轉すること困難なりしもの三人六棟、全く受命者の怠慢に因るもの五人五棟なり。

第三節 臨時收容家屋

移轉工事の開始に伴ひ臨時收容家屋の必要に迫られたるを以て、昭和二年八月下谷區金杉上町九十番及同區龍泉寺町三百九十六番に移動式住宅六十一棟、同物置四棟を設置し、同月より希望者に使用せしめ、爾來移轉工事の進捗に伴ひ使用希望者増加したるを以て、同三年一月淺草區千束町三丁目七十九番に更に住宅三十七棟、物置十四棟を設置し、何れも工事終了迄其の用に供したり、之が棟數及收容世帶數等を示せば左の如し。

設置場所	棟數		設置撤去		期間		收容					
	住宅	物置	年月	年月	住宅	物置	世帶數	一棟當人員	一棟當人員	世帶數		
下谷區金杉上町九十番	五	三	昭和二、八	昭和三、〇	自昭和二、八	同上	三五	五・七七	一、四〇〇	二、三・一〇	二二	七・三三
同龍泉寺町三百九十六番	三	一	昭和二、八	昭和三、九	自昭和二、八	同上	二六	九・三三	一、七〇	四、八・九〇	八	八・〇〇
淺草區千束町三丁目七十九番	三	一	昭和三、一	昭和三、〇	自昭和三、一	同上	二二	三・五	一、四〇〇	一、四・六三	二五	一・七六
計	一六	五					八三	一八・〇	二、〇・〇〇	一、〇・〇〇	五五	三・〇・三三



第四節 宅地造成

本地區は地勢平坦且道路標高の變更少かりしも、千束堀覆蓋工事に因る盛土工及假下水工事を要したる箇所多かりし爲、工事件數三十五件百七十七箇所<sup>間</sup>に及べり、而して工事種別は假下水最も多く二十件百三十九箇所にして、其の他盛土工十件三十三箇所、切土工五件五箇所なり。

工事著手は昭和二年六月淺草區千束町一丁目五十六番地先の假下水を最初とし、それより逐次各種工事を施行し、同三年十一月下谷區金杉上町八十五番の盛土工を最後とし、三十五件の工事を全部完了したり、之れに因る宅地造成完了總面積は九千五百坪九合八勺なり、其の工事狀況を見るに左の如し。

工事種別	工事		數量	金額	内		營		請		譯	
	件數	箇所			直	營	件數	箇所	數量	金額	件數	箇所
假下水	二〇	二五	四、二五・九五 <sup>間</sup>	二、七五・八四 <sup>円</sup>	五	三	五〇・〇〇 <sup>間</sup>	一、三三・七九 <sup>円</sup>	一五	一〇八	三、六三・九五 <sup>間</sup>	一〇、四〇・〇六 <sup>円</sup>
盛土工	一〇	三三	三六〇・九〇 <sup>立坪</sup>	二、二八五・四〇	六	三	八・二〇 <sup>立坪</sup>	四八七・二〇	四	二	二九・七〇 <sup>立坪</sup>	一、七九・二〇
切土工	五	五	二八・一九 <sup>立坪</sup>	六四〇・九五	一	一	一四・九〇 <sup>立坪</sup>	七四・五〇	四	四	一一三・二九 <sup>立坪</sup>	五六・四五
計	三五	一七		一四、六二・九	三	四		一、八六・四	三三	一一三		三、七四・七

第六章 墳墓移轉

本地區に於て整理を要したる墓地は、本市所有元寺院境内共葬墓地五筆、私有墓地十六筆合計二十一

第三十九地區 乙 建物其の他の工作物移轉

筆にして此の總面積四千二百十坪三合二勺、之に所在する墓碑六千六百六十八基なり。  
前記墓地の内一般宅地の換地又は公共用地となりたる面積は二千五百二十七坪七合九勺にして、之に所在し移轉を要したる墓碑は四千七十九基なり。

昭和二年八月より徳念寺以外の墓地に就き墓碑其の他の現地調査に著手し、其の調査に基き移轉料の算定を爲し、同年九月以降順次墓地管理人と協議を遂げ、同年十二月より同三年八月に至る間に於て夫々移轉するの契約を締結したり、又徳念寺の管理に係る墓地は同寺に於て曩に復興局と東京佛教護國團との内協議に依る移轉料の交付を受くる豫定の下に既に郊外に土地を購入し、之に墓地を新設したるを以て、同所へ移轉方至急承認せられたき旨右管理人より申出あり、當時未だ移轉料の算定方針決定せざりしも、墓地の移轉速行は當局に於ても望む所なるを以て、移轉料に關しては當局の方針決定後に於て協定する條件の下に、之を容認し直に墓碑其の他の現地調査を爲し、大正十四年十二月迄に移轉せしむることとせり、而して昭和二年四月に至り坪當二十五圓の移轉料を交付することに決定し同年六月之が契約を締結せり、以上之に要したる移轉料の總額は八萬二千九十九圓七錢、内國負擔額四萬三千六百三十一圓三十六錢、市負擔額三萬八千四百六十七圓七十一錢にして、其の支拂は昭和三年十月迄に全部之を了したり。

前記契約及移轉完了豫定年月日並移轉料を管理寺院別に示せば左の如し。

管理寺院名	要移轉 墓碑基		契約年月日	移轉完了 豫定年月日	移 轉 料				
	數	埋葬 靈數			墳墓	工作物	雜費	計	一基當
了源院	100	506	昭和二、九、一〇	昭和三、四、一〇	一、七〇七・八〇	六、九〇	五三・三四	二、八七・〇四	二三・八七
西徳寺	四七〇	二、二五三	同 二、一〇、一	同 二、二二、三〇	八、四九六・〇〇	一、一五七・三三	一、六九二・二〇	二、四五三・四二	二四・三六

西德寺	四七〇	二、二五〇	同	二、〇、一	同	二、二、三〇	八、四九六・〇〇	一、二五七・三	一、六九二・〇	二、四五・四二	二四・三六
-----	-----	-------	---	-------	---	--------	----------	---------	---------	---------	-------

大音寺	五	二、二〇五	同	二、九、一〇	同	三、二、一五	八五〇・六〇	七・八〇	二九七・七一	一、一五・二一	二二・六六
大照寺	五	一、五〇	同	二、九、一〇	同	三、四、三〇	六五・四〇	一四・一四	二二八・八九	八六・四三	一五・三三
正燈寺	二、三	三、三	同	二、九、一〇	同	三、四、一五	二、二〇・〇〇	九・五四	六三六・〇〇	二、七五・五四	二〇・三三
長國寺	五、二	一、一七	同	三、二、五	同	三、四、三	六、〇三・八〇	三三・五六	一、二〇六・五	七、四六・九二	一九・〇三
宗慶寺	一、七	一、一四	同	二、一、二	同	三、五、三	三、〇五・八〇	一三・三五	七六四・四五	四、〇四・八〇	二二・五一
法昌寺	二、二	九、二	同	二、一〇、元	同	三、四、三〇	三、四四・〇〇	一六・二二	八三三・五〇	四、四八・五三	一七・二二
正洞院	三、三	一、六二	同	二、一、九	同	三、四、三〇	五、七九・〇〇	七〇七・一〇	一、一四七・八〇	七、五九・三〇	二二・三三
感應寺	三、二	一、六〇	同	二、一〇、元	同	三、四、三〇	五、四七・四〇	八四・四五	一、〇六九・四八	六、五〇・三三	一九・〇六
嶺照院	一、五〇	五、九	同	二、一〇、元	同	三、四、三〇	二、一八・二〇	八六・八三	五四・五五	三、六四・五	二四・五
徳念寺	二、七	九、〇	同	二、六、六	大正二、四、二三	一、七四・二五	一、七四・二五	—	—	一、三九・二五	五・七九
隨徳寺	五、五	三、二	同	二、一〇、元	昭和三、四、三〇	九、九八・〇〇	二、五四・七	二五四・七	一、九六・二〇	二、三三・九八	二二・五一
正覺寺	八、五	三、八五	同	二、二、一〇	同	三、八、三	三、二七九・〇〇	三七六・五	二、六五・八〇	一六、一九・二五	一九・八六
計	四、〇九	二〇、一三					四、三三・二五	四、二六・三四	三、六二・四八	八二、〇九・〇七	三三・五

前記墳墓の移轉は當局の指導督勵と管理寺院の努力とに依り、豫定の如く昭和三年八月迄に全部之が完了を見たり、尙以上墳墓の内徳念寺の管理に係るものは郊外に墓地を新設して之に移轉し、其の他のものは何れも各寺院の特設墓地に移轉したり。

## 丙 地下埋設物其他工作物整理

## 第一章 概 説

本地區に於ける工事數量は本枝管線處理電柱七百十九本、管線路三萬二千七百九十五間七、其の他九百二十二箇所(一地區集計電柱三百四十七本、管線路二萬九千八百九十八間七、其の他六百十四箇所、應急整理一工事電柱四十八本、管線路六百二十九間五、其の他二百九十七箇所、假本整理電柱三百二十四本、管線路二千二百六十七間五、其の他十一箇所)及私有管線處理一萬二千五百五十一件にして、内道路占用の許可又は承認を爲したる要求工事千六百六件、内道路後修を要したるもの九百九件なり、之を事業別に見るに水道工作物管線路八千六百四十七間六、其の他二千七百七十八件及二十四箇所整理費十三萬九千四百四十四圓五十六錢、下水工作物管線路五千八百四十六間七、其の他八百七十五箇所整理費十二萬三千百三十三圓八十三錢、市電工作物電柱五十八本、管線路千三百六十七間七、其の他百二十七件及一箇所整理費五千五百八圓四十八錢、東電工作物電柱六百六十一本、管線路二千六百六十二間二、其の他七千五百四十五件及十九箇所整理費十二萬七百七十九圓四十三錢、瓦斯工作物管線路一萬四千二百七十一間五、其の他千七百一件及三箇所整理費八萬三百四十四圓六十五錢なり、而して本地區に於ける整理費は總計四十六萬九千二百十圓九十五錢にして、内一地區集計の二十五萬六千百十三圓五十五錢を最高とし、私有管線の十六萬四千六百七十七圓二十九錢之に次ぎ、其の他は假本整理、道路後修、應急整理一工事の順序なり、是等の工事並支拂狀況を示せば左の如し。

工事一覽

種別	市水道局		市土木局下水課		市電氣局		東京電燈株式會社		東京瓦斯株式會社		計
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
集一地區計	電柱 七、三九七・九	五、八三〇・六二	電柱 五、四九一・一	八、六〇〇・九二	電柱 一、一九二・七二	三、三二一・二七	電柱 三、六四二・〇	八、一三五・八一	電柱 一、三、三三〇・〇	三、九八八・七	三、九八八・七
管線路											
其他											
應急工事	電柱 四・九	一、三六・一三	電柱 四〇七・六	三、四六八・四〇	電柱 一、七五〇・〇	一、四四六・四五	電柱 四〇	二、九〇〇・三八	電柱 四二・〇	一、九六・六八	一、九六・六八
管線路											
其他											
假本	電柱 一、二五四・八	六、〇六六・一七									
管線路											
其他											
私有管線	電柱 二、七七八	七、五六一・三六									
管線路											
其他											
道路後修	電柱 四七三	八、一七六・八一									
管線路											
其他											
合計	八、六四七・六	三三、〇四一・五	五、八四七・七	三三、三三三・八	一、三三七・七	一、五〇八・四	二、三三二・二	三、三三七・四	一、四二七・五	八、〇三〇・五	四九、二二〇・五
其他	二、七七八		八七五		二七		七		一〇		

第三十九地區

丙 地下埋設物其他工作物整理

備考

第三十九地区 丙 地下埋設物其他工作物整理  
 一 數量欄中には附帯工事數量は掲げざるも金額は合算せり。  
 二 事業者別合計欄數量には道路後修の數量を含まず。

年度別工事進捗状況

種別	昭和二年		昭和三年		昭和四年		昭和五年		計	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額
一地区集計	電柱 二七本 管線路 二八五・二一 其他 八九ヶ所	三、二六〇・八一 八、三三・九六 四、一四八・九一	電柱 二六本 管線路 一六、四四八・〇 其他 三三ヶ所	三六、三三九・三四 一三、七九・二六 一五、一三三・九〇	電柱 五七本 管線路 八、一六九・二 其他 二二ヶ所	六八、八三・九四 五、一九三・五一 一〇、三三二・二九	電柱 二本 管線路 二、四二九・四 其他 一ヶ所	三六二・三三 七、三三・四三	電柱 三四本 管線路 二九、八九八・七 其他 六四ヶ所	三六、八三六・四〇 一八九、六四二・〇五 二九、六三三・一〇
應急工事	電柱 一六本 管線路 六三・〇 其他 一六ヶ所	九三四・一四 三、四二・八四 二、四八〇・〇	電柱 二五本 管線路 四三・〇 其他 一五ヶ所	一、九九九・八五 三、六九二・四一 二、四一八・六〇	電柱 七本 管線路 一三五・五 其他 二〇ヶ所	二、四一・七五 一、三二・四一 一、〇八一・八九	電柱 一ヶ所 管線路 一、二二・四 其他 一ヶ所	七、六九・七三 五、九五・八八 五九五・八八	電柱 四本 管線路 六三九・五 其他 二九ヶ所	三、一五八・七四 五、二四七・六六 四、三四四・三七
整理	電柱 一ヶ所 管線路 一、五四・九	一、五四・九	電柱 四本 管線路 一、八七・一三 其他 一、七二・一八	一、八七・一三 八、一一〇・八六	電柱 二八本 管線路 一、二一〇・五三 其他 一、九〇・三三	二、五九・〇五 二、二九・〇五	電柱 一ヶ所 管線路 一、九〇・三三 其他 一、九〇・三三	五、九五・八八 二、九〇・一四	電柱 三四本 管線路 二、二六七・五 其他 二ヶ所	二、四〇・六一 七、七四四・三九 一、四〇・三三
假本	管線路 一、九七・六	一、九七・六	管線路 一〇六・五三	一、九七・六	管線路 四、六四七・七二	二、九〇・一四	管線路 二、二六七・五	管線路 二、二六七・五	管線路 二、二六七・五	二、二六七・五
私有管線	三、一七・三 四三件	四、二八・三〇	八、九七・七 二七件	一、四七・六 六八六三・七二	二、九八・六 五、二九二・八三	二、九八・六 五、二九二・八三	二、九八・六 五、二九二・八三	二、九八・六 五、二九二・八三	二、九八・六 五、二九二・八三	二、九八・六 五、二九二・八三
道路後修	三、〇八・二七 一三	一、六〇・七二	三、〇八・二七 一三	三、〇八・二七 一三	三、〇八・二七 一三	三、〇八・二七 一三	三、〇八・二七 一三	三、〇八・二七 一三	三、〇八・二七 一三	三、〇八・二七 一三
合計										
進捗歩合%										100

進捗歩合%
三
五
三
二
一〇〇

國市負擔區分

種別	水道		下水		市電		東電		瓦斯	計
	國負擔	市負擔	國負擔	市負擔	國負擔	市負擔	國負擔	市負擔		
一地區集計	一六、五五・八〇	五、二四四・八三	三七、一九五・五二	七九、〇四〇・四九	九三三・二五	一、九八三・二六	一四、一九七・四六	一三、〇四四・三〇	八一、九六六・三三	
	計	計	計	計	計	計	計	計	計	
應急整理一工事	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	計	計	計	計	計	計	計	計	計	
假本整理	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	計	計	計	計	計	計	計	計	計	
事業者拂	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	計	計	計	計	計	計	計	計	計	
私有管線	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	計	計	計	計	計	計	計	計	計	
現金補償(個人拂)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	計	計	計	計	計	計	計	計	計	
計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	計	計	計	計	計	計	計	計	計	

第三十九地區

丙 地下埋設物其他工作物整理





## 第二章 本枝管線處理

### 第一節 應急整理一地區集計

本地區に於ける當初契約數量は電柱三百五十三本、管線路三萬百十五間四、柵四百六十九個及之に係せる各種工作物にして此の整理費二十六萬三千六百四十四圓七十四錢なり、而して假契約は市電工作物に關し昭和二年七月十九日締結したるを、工事は東電工作物に關し同年八月十九日著手したるを、本契約は市電工作物に關し同三年五月一日締結したるを各最初とし、それより逐次各事業者と契約を締結し工事を施行したり、其の事業者別契約並工事狀況を示せば左の如し。

事業者	假契約年月日	本契約年月日	工事著手年月日	工事竣功年月日
市水道局	昭和 二、二、二	昭和 三、六、二五	昭和 三、一、二四	昭和 四、二、三〇
市土木局下水課	昭和 三、二、三	昭和 三、五、一五	昭和 三、二、二四	昭和 四、三、二六
市電氣局	昭和 二、七、元	昭和 三、五、一	昭和 二、一〇、九	昭和 四、二、二六
東京電燈株式會社	昭和 二、八、三	昭和 三、九、二六	昭和 二、八、元	昭和 五、四、二
東京瓦斯株式會社	昭和 二、九、八	昭和 三、七、四	昭和 二、一〇、二五	昭和 五、七、一五

工事施行中設計變更を爲したる件數十七件ありたる結果、柵に於て百四十五個増加したるも電柱に於て六本、管線路に於て二百十六間七の減少を爲したる爲、工事費に於て七千五百三十一圓十九錢の減額を爲せり、其の設計變更狀況を示せば左の如し。

種別	電柱		管線		柵		計
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
當初契約	三五 <sub>本</sub>	一六、〇六・八七 <sub>円</sub>	三〇、二五 <sub>間</sub>	二〇八、九〇・五五 <sub>円</sub>	四六 <sub>間</sub>	一六、五八・三二 <sub>円</sub>	二六三、六四・七四 <sub>円</sub>
設計變更後 (精算)	三四七	三、八三・四〇	二九、八九・七	一八九、六四・〇五	六四	二九、六三・一〇	二五六、一三・五五
差引 増△減	△ 六	八、七九・五五	△ 二六・七	△ 一九、三四・八五〇	一四五	三、〇四・七六	△ 七、五三・一九

尙工事並支拂狀況等を示せば左の如し。

工事進捗狀況

年度	電柱		管線		柵		計	歩合%
	數量	金額	數量	金額	數量	金額		
昭和二年	二七 <sub>本</sub>	三、二〇・八一 <sub>円</sub>	二、八五・一 <sub>間</sub>	八、三三・九六 <sub>円</sub>	八九 <sub>間</sub>	四、一四・九一 <sub>円</sub>	一五、七三・六八 <sub>円</sub>	六
昭和三年	二六一	二六、三九・三三	一六、四八・〇	一三、七八・一六	三三	一五、二三・九〇	一六四、三三・四〇	六四
昭和四年	五	六、八三・九四	八、一六・九二	五、一九・二五	二二	一〇、三二・二九	六八、四八・七四	二七
昭和五年	二	三、六二・三三	二、四九・四	七、三三・四二	一	七、六九・七三	七、六九・七三	三
計	三四七	三六、八三・四〇	二九、八九・七	一八九、六四・〇五	六四	二九、六三・一〇	二五六、一三・五五	一〇〇

支拂狀況

年	昭和三	昭和四	昭和五	計
年度	昭和三年	昭和四年	昭和五年	計
國負擔	二八、二三〇元	三六、七四四・一	一七、〇九〇・三	八二、九五六・三
市負擔	五九、七五九・四	七八、〇八一・二五	三六、三六・五〇	一七四、一五二・三
計	八七、八八一・五	一一四、八五五・三六	五三、四〇六・六三	二五六、一三三・五
歩合%	三四	四五	二二	一〇〇

負擔別對照

負擔區分	潰地面積	比率%	市水道局		市土木局下水課		市電氣局		東京電燈株式會社		東京瓦斯株式會社		計	
			契約金額	精算金額	契約金額	精算金額	契約金額	精算金額	契約金額	精算金額	契約金額	精算金額	契約金額	精算金額
國負擔 幹線 九二四三・一八		三三・一七五	二八八・一六五	八五八・〇	三五・一八二	三七・一九五	二六五・〇六〇	九三・三五	一七〇・四二六	二四・一九七	三〇・九四二	八四・三六三	八・九五六	
補助線 一〇七九・五〇		三七・二〇五	一九一・七三三	四〇六・八一五	四三・〇〇七	三〇六・四七六	一〇七・〇八	一四六・八九三	二六・四二五	二四・一五八	三〇・九四二	九七・五四八	九四・七二〇	
街路費 八七五・〇一〇		三〇・一六四	一五五・四一九	三三・九八三	三四・八七〇	二四・八四九	八七・四九二	一一九・〇二五	一三・三〇	一五・二九〇	二二・三九〇	七九・〇九三	七六・八三四	
市負擔 整理地 五〇一・六九		一	五八・三〇	一〇九・九四六	一一・六三六	八二・八三	二九・一六	三九・七〇〇	四四・六七	五〇・九六九	四〇・七六三	二六・六四四	二・五六二	
小園費 二〇〇四・三九		六三・七三二	二〇三・二四八	七四・七三三	七九・〇四四	五三・三三三	九三・一六二	一六六・三三〇	一六六・三三〇	一六六・三三〇	一六六・三三〇	一七九・二八四	一七四・一五七	
合計 二九二八・六七		一〇〇	八八五・八〇六	一〇九・九四六	二六三・三六〇	二八二・三三三	三九・六四四	一六六・三三〇	一六六・三三〇	一六六・三三〇	一六六・三三〇	一六六・三三〇	一六六・三三〇	

補償金對照

工種	市水道局		市土木局下水課		市電氣局		東京電燈株式會社		東京瓦斯株式會社		計	
	契約金額	精算金額	契約金額	精算金額	契約金額	精算金額	契約金額	精算金額	契約金額	精算金額	契約金額	精算金額
既設工作物と整理工作物と一致せる部分	三三,九八八	四二,四五〇	五九,三四五	五九,九四七	六五,六二九	六〇,五二四	二八,六五八	二六,六八八	四一,〇一六	四一,七三五	一五,九六〇	一四,八四三
過不足分(一致せざる部分)	二七,一三三	三三,八四七	四九,八六三	五九,三五七	一三,〇三二	二三,一二七	八,一七四	六,一五三	一五,九一七	一五,八二六	八,七九二	九,四六七
累計	七〇,一二三	一〇〇,二九七	一〇九,二〇八	一一九,三〇四	七八,六六一	八三,六五二	三六,八三二	三二,八四一	五七,九三三	五七,五八二	二四,七五二	二四,三〇六
小計	五八,九一〇	四九,四〇三	一〇九,九六六	一一九,三〇四	七八,六六一	八三,六五二	三六,八三二	三二,八四一	五七,九三三	五七,五八二	二四,七五二	二四,三〇六
附帶工事分(假工事を含む)	二九,〇六八	二四,四四一	—	—	三九,四四三	—	二八,五八五	二六,〇二七	四六,三三〇	二〇,四四四	一〇,八〇〇	一四,〇七八
補償額計	八八,〇〇〇	七三,八四四	一〇九,九六六	一一九,三〇四	一一八,〇〇四	八三,六五二	六五,四一七	五九,八六八	一〇四,二六三	七八,〇二二	三五,五五二	三八,三〇四

第二節 應急整理一工事

本地區に於ける應急整理一工事は件數八十一件整理費一萬二千七百五十圓七十七錢にして、昭和二年九月三日東京電燈株式會社關係工作物の整理に着手したるを最初としそれより逐次各種工事を施行せり、之を事業者別に見るときは市水道局六件金額七百八十九圓六十錢、市土木局下水課四十五件金額六千八百九十七圓八十二錢、市電氣局四件金額千七百四圓八十一錢、東京電燈株式會社二十一件金額三千百三十六圓八十一錢、東京瓦斯株式會社五件金額二百二十一圓七十三錢なり、其の工種別及工事並支拂狀況を示せば左の如し。

工事種別

種別	水道		下水		市電		東電		瓦斯		計	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額
道路工事	電柱	四九〇間	一三六・二三			一七五間	一、四六・四五	一〇四本	九五・七四	四二〇間	二六・六六	一、〇一・七一
		管線路	二四ヶ所	六五・四七			一ヶ所	一・〇五	一ヶ所	一・〇五	三ヶ所	二五・〇五
建物移轉	電柱											
		管線路	四〇七間	三、四六・四〇								
出入口	電柱											
		管線路	四九〇間	一三六・二三								
合計	電柱					八本	一五・元	一〇本	六九・七			八四・一六
		管線路	四九〇間	一三六・二三			四〇本	三、四六・四〇	四〇本	三、四六・四〇	四八本	三、一五・七四
合計	管線路											
		其他	二四ヶ所	六五・四七	二六ヶ所	三、四九・四二	一ヶ所	一・〇五	一ヶ所	一・〇五	三ヶ所	二五・〇五
合計	其他											
		計	七九・〇	七九・〇	六、八九・八二	一、七四・八一	三、二六・八一	三、二六・八一	三、二六・八一	二九八	四、三四・三七	二、七五・〇七

第三十九地區

丙 地下埋設物其他工作物整理

第三十九地區 丙 地下埋設物其他工作物整理  
工事進捗状況

年 度	電 柱		管 線 路		其 の 他		計
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
昭 和 二 年	一六本	九三、一四	六三間	三、四一、八四	一七ヶ所	二四八、〇〇	一、五四、九八
昭 和 三 年	一五	一、九九、八五	四三、〇	三、六九、一四	一五	二、四八、六〇	八、二〇、八六
昭 和 四 年	七	二四、七五	一三五、五	一、二二、四二	一〇五	一、〇八、八九	二、五九、〇五
昭 和 五 年	一	—	—	—	二〇	五九五、八八	五九五、八八
計	四	三、二八、〇四	六九五	五、二四七、六六	二九八	四、三、四、三七	一三、七五〇、七七
							一〇〇

六五四

支拂状況

年 度	國 負 擔		市 負 擔		計	步 合 %
	數量	金額	數量	金額		
昭 和 三 年	—	—	—	四、二四、九三	四、二四、九三	三三
昭 和 四 年	—	—	—	六、三三、七九	六、三三、七九	四九
昭 和 五 年	—	—	—	一、六三、六二	二、二九、四五	一八
計	—	—	—	三、二五、九三	三、二五、九三	一〇〇

第三節 假本整理

本地區に於ける假本整理工事は件數五十四件整理費二萬千九百六圓八錢全部市負擔にして、昭和三年

本地區に於ける假本整理工事は件數五十四件整理費二萬千九百六圓八錢全部市負擔にして、昭和三年

十一月十一日東京電燈株式會社關係工作物の整理に著手したるを最初としそれより逐次各種工事を施行せり、之を事業者別に見るときは市水道局四件金額六千八百六圓十七錢、市電氣局四件金額七十三圓三十二錢、東京電燈株式會社四十三件金額一萬四千三百一十一圓七十一錢、東京瓦斯株式會社三件金額千四百三十四圓八十八錢なり、其の工種別及工事並支拂狀況を示せば左の如し。

工事種別

種別	水道		市電		東電		瓦斯		計
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
交通 障通	電柱		七本	五・〇四	三七本	一四、〇〇九・六二		三四本	一四、〇六一・六六
	管線路		一ヶ所	三・二六	二〇・二	一八三・四		二〇・二	一八三・四
其他	計			三・二六	二〇・二	一八三・四		二〇・二	一三・七五
	其他								
其他	管線路	一、二五四・八							
	電柱			七本	五・〇四	三七本	一四、〇〇九・六二	三四本	一四、〇六一・六六
合計	計								
	其他			一ヶ所	三・二六	二〇・二	一八三・四	二ヶ所	七・五二・〇五
合計	計	六、〇八六・七	六、〇八六・七	一四、三二七・一	一四、三二七・一	一、四三四・八	二、二四七・三	二、九〇六・〇八	

第三十九地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

年 度	電 柱		管 線		其 他		計	歩 合 %
	數量	金額	數量	金額	數量	金額		
昭 和 三 年	四 <sup>本</sup>	一、八七・三 <sup>円</sup>	一四 <sup>間</sup>	一〇六・五 <sup>円</sup>	一 <sup>ヶ所</sup>	一	一、九七・六 <sup>円</sup>	九
昭 和 四 年	二六	二、一九〇・五	一、七〇・八	四、六四七・七 <sup>二</sup>	二	一四〇・三 <sup>三</sup>	一六、九八・二 <sup>六</sup>	七
昭 和 五 年	一	—	五五〇・〇	二、九五〇・二 <sup>四</sup>	一	—	二、九五〇・二 <sup>四</sup>	三
計	三〇	一四、〇六一・六	二、二六七・五	七、七四四・三 <sup>九</sup>	二	一四〇・三 <sup>三</sup>	二一、九六六・〇 <sup>八</sup>	一〇〇

支拂状況

年 度	市 負	擔	歩 合 %
昭 和 三 年		一一、二六・六 <sup>円</sup>	五
昭 和 四 年		一〇、七八九・四 <sup>七</sup>	四九
計		二一、九六六・〇 <sup>八</sup>	一〇〇

第三章 私有管線處理

本地區に於ける私有管線整理工事に關する申請書の受付は昭和二年四月二十九日より之を開始し、同



本地區に於ける私有管線整理工事に關する申請書の受付は昭和二年四月二十九日より之を開始し、同

四年三月三日迄に全部の受付を了したり、而して工事は昭和二年六月十七日に著手しそれより順次建物移轉の進捗に伴ひ各種工作物の整理を爲し、同四年三月二十五日を以て全工事を完了したり、其の申請書並整理件數は一萬二千五百五十一件金額十六萬四千六百七十七圓二十九錢にして、之を事業別に見るときは水道二千七百七十八件金額七萬二千五百六十一圓三十六錢、市電百二十七件金額六百九圓六十錢東電七千五百四十五件金額五萬七千九百四十五圓六十錢、瓦斯千七百一件金額三萬三千五百六十圓七十錢なり、尙建物一棟當りの裝置數を見るに水道○・四三栓、電燈二・四三燈、瓦斯○・二六個(計量器數なり其の工事並支拂狀況を示せば左の如し。

年 度	工 事 狀 況			支 拂 狀 況					
	件數	金 額	歩合%	國 負 擔	市 負 擔	合 計	件數	金 額	歩合%
昭 和 二 年	三、一七二	四三、二八・三〇 <sup>円</sup>	二六	二六 <sup>円</sup>	一、四八五・三三 <sup>円</sup>	一、七〇二・三四 <sup>円</sup>	二六	一、七〇二・三四 <sup>円</sup>	一
昭 和 三 年	八、九七九	一三、四六・九八	七四	一〇、二四〇・六六	五、七九・七九	六、六六・三三	二六	七、一六四・三三	四六
昭 和 四 年	—	—	—	二、四〇八・二七	六九、二四〇・二〇	五、一〇五	四九	八〇、六六二・四七	—
昭 和 五 年	—	—	—	四三三・三六	二、五九・八八	二、七六	二	三、〇三三・二六	二
未 済	—	—	—	—	一、五七・〇八	一、五七・〇八	—	二、九九・〇二	—
計	一二、一五一	一四、一六七・二九	一〇〇	二〇、二九三・三三	一、四八五・三三	一、七〇二・三四	一〇〇	一、七〇二・三四	—

備考 △印は再設費未支拂(撤去費は支拂済)のもの。

前記の内事業者拂に屬するもの一萬二千四百四十七件金額十四萬九千六百三十二圓三十九錢にして、内  
第三十九地區 丙 地下埋設物其他工作物整理  
六五七

國負擔千五百九十七件金額二萬四百五十圓四十五錢、市負擔一萬五百五十件金額十二萬九千八百八十一圓九十四錢なり、尙現金補償に屬するもの(移設費を含む)千五百五十五件金額一萬五千四十四圓九十錢にして、内國負擔二百三十六件金額千八百四十二圓十八錢、市負擔千三百十九件金額一萬三千二百二圓七十二錢なり、其の負擔狀況を示せば左の如し。

種別	水道		市電		東電		瓦斯		計	
	件數	金額	件數	金額	件數	金額	件數	金額	件數	金額
	事業		事業		事業		事業		事業	
事業	國負擔	四〇六・二〇・二七・七五	三〇一・六三・二〇	九六八	六、三九・五〇	二九	三、七八・九六	一、五九七	二〇、四五〇・四五	
	市負擔	三、三六五・二五・二二	九、四七・八四・六〇七	四、四一・四〇・三〇一	四、八二・二六・一四七・五九	一〇、五五〇	二九、一八・九四	二、〇八六・一八	二、〇八六・一八	
現金補償 (個人拂)	再設費	三	四七・九七	—	一四八	八七四・三〇	五	五九・九一	二六	一、八四二・一八
	移設費	三	四七・九七	—	一四八	八七四・三〇	五	五九・九一	二六	一、八四二・一八
合	計	二、七四六・三三・九六	二、七五二・〇四・七五	二、七五二・〇四・七五	五〇、七九・八四・一七〇	二九、九八・五三・二四七	二九、九八・五三・二四七	二、〇八六・一八	二、〇八六・一八	
	市負擔	二、三三六・九六・六四	九、四七・八四・六〇七	四、四一・四〇・三〇一	四、八二・二六・一四七・五九	一〇、五五〇	二九、一八・九四	二、〇八六・一八	二、〇八六・一八	
再設費	國負擔	四〇六・二〇・二七・七五	三〇一・六三・二〇	九六八	六、三九・五〇	二九	三、七八・九六	一、五九七	二〇、四五〇・四五	
	市負擔	四二、二六・五四	—	—	—	—	—	—	—	
移設費	國負擔	四〇六・二〇・二七・七五	三〇一・六三・二〇	九六八	六、三九・五〇	二九	三、七八・九六	一、五九七	二〇、四五〇・四五	
	市負擔	四二、二六・五四	—	—	—	—	—	—	—	
計	國負擔	四〇六・二〇・二七・七五	三〇一・六三・二〇	九六八	六、三九・五〇	二九	三、七八・九六	一、五九七	二〇、四五〇・四五	
	市負擔	二、三三六・九六・六四	九、四七・八四・六〇七	四、四一・四〇・三〇一	四、八二・二六・一四七・五九	一〇、五五〇	二九、一八・九四	二、〇八六・一八	二、〇八六・一八	
合	計	二、七四六・三三・九六	二、七五二・〇四・七五	二、七五二・〇四・七五	五〇、七九・八四・一七〇	二九、九八・五三・二四七	二九、九八・五三・二四七	二、〇八六・一八	二、〇八六・一八	
	市負擔	二、三三六・九六・六四	九、四七・八四・六〇七	四、四一・四〇・三〇一	四、八二・二六・一四七・五九	一〇、五五〇	二九、一八・九四	二、〇八六・一八	二、〇八六・一八	

### 第四章 道路占用

本地區に於ける占用事務は昭和二年六月十日開始し同四年七月三十一日閉止の豫定なりしが、建物移轉並道路工事の關係により同年十一月十五日之を閉止せり、而して翌五年八月三十日迄に臺帳の作成を了し市土木局に引繼を爲せり。

本地區に於ては昭和二年六月二十三日市水道局に一括承認を爲したるを最初としそれより逐次各事業者に許可又は承認を爲したり、而して右に對する分割許可又は承認は同年七月十一日市水道局に承認せるを最初としそれより逐次各事業者に許可又は承認を爲し、昭和四年十一月一日市電氣局に承認せるを最終とし要求工事千六百件、非要求工事二千三百五十件の許可又は承認を爲したり、其の狀況を示せば左の如し。

事業者	一括占用許可 承認年月日	分割許可		件数		
		最初年月日	最終年月日	要求工事	非要求工事	計
市水道局	昭和二、六、三	昭和二、七、二	昭和四、七、四	五五	三六	九一
市土木局下水課	昭和二、六、七	昭和四、四、三	昭和四、一〇、六	二	三	五
市電氣局	昭和二、七、二	昭和二、七、三	昭和四、一、一	三	七	一〇
東京電燈株式會社	昭和二、六、七	昭和二、七、五	昭和四、一〇、四	一三	三	一六
東京瓦斯株式會社	昭和二、六、七	昭和二、七、〇	昭和四、九、五	四三	一、九三	二、三六
警視廳	昭和二、六、七	昭和四、五、一	昭和四、五、一	一	一	一

第一 要求工事

本地區に於ける要求工事は千百六件其の延長二萬七千四百四十六間七二七、掘鑿面坪九千四百二十八坪六七五にして、之を事業者別に見るときは市水道局五百十五件其の延長五千五百二十八間〇六六、掘鑿面坪千七百八十九坪六三七、市土木局下水課二件其の延長六千七百七十二間四五、掘鑿面坪二千九百九十八坪五五九、市電氣局十二件其の延長五百九十間〇九、掘鑿面坪百八十五坪〇八九、東京電燈株式會社百三十四件其の延長二千八百一四間一五、掘鑿面坪千四百七坪二九二、東京瓦斯株式會社四百四十二件其の延長一萬千八百十四間九七一、掘鑿面坪三千四百八坪〇九八、警視廳一件なり、尙之を類別すれば大掘鑿二百三件其の延長二萬五千九百五間二九、掘鑿面坪八千九百三十坪〇九二、小掘鑿九百三件其の延長千五百四十一間四三七、掘鑿面坪四百九十八坪五八三なり、其の事業者別許可又は承認狀況を示せば左の如し。

年 度	大 掘 鑿		小 掘 鑿		計	
	件數	延 長	件數	延 長	件數	延 長
昭和二年	市 水 道 局	一 七三・九〇〇 <sup>間</sup>	二九〇	五九〇・八三三 <sup>間</sup>	二九一	六四四・七三三 <sup>間</sup>
	市 電 氣 局	八 五七・九五〇	—	—	八	五六七・九五〇
東京電燈株式會社	二七 七五・六五〇	二七・八九九	—	—	二七	七五・六五〇
	東京瓦斯株式會社	一 二四一・〇〇〇	一六	二三三・五〇〇	一八七	四七四・五〇〇
計	三七 一、六六八・五〇〇	四八五・四四	四七六	八四四・三三三 <sup>間</sup>	五三三	二、四九二・八三三 <sup>間</sup>
市 水 道 局	二三 二、二六六・二〇〇	七四二・〇九六	—	—	二三	二、二六六・二〇〇
						七四二・〇九六
						七五・六五〇
						一三三・七五六 <sup>坪</sup>
						一七三・九八九
						二二七・八六五
						一三三・〇五〇
						七五・六五〇
						一三三・七五六 <sup>坪</sup>

市 水 道 局  
 一三 二,二六六,二〇〇  
 七四二,〇九六

昭和三年			昭和四年			合計		
市電氣局	東京電燈株式會社	東京瓦斯株式會社	市水道局	市土木局下水課	市電氣局	市水道局	市土木局下水課	市電氣局
一	八九	一五	一九	二	二	一九	二	二
一四,七四〇	一,五七七,二五〇	八,三四五,〇〇二	四,四〇〇	二,〇六五,三〇〇	五九〇,〇九〇	四,四〇〇	二,〇六五,三〇〇	五九〇,〇九〇
四,八〇〇	六八,四七	二,〇三〇,〇九二	六四四,五九二	二,九八八,五五九	一八五,〇八九	二,〇三〇,〇九二	二,九八八,五五九	一八五,〇八九
		一八九	二〇六			一八九	二〇六	
		一三三,三三三	五三,八三三			一三三,三三三	五三,八三三	
		三七,〇〇〇	一七,一九三			三七,〇〇〇	一七,一九三	
一	八九	二四	二二	二	二	二二	二	二
一四,七四〇	一,五七七,二五〇	八,三四五,〇〇二	二,〇六五,三〇〇	二,九八八,五五九	五九〇,〇九〇	二,〇六五,三〇〇	二,九八八,五五九	五九〇,〇九〇
四,八〇〇	六八,四七	二,〇三〇,〇九二	六四四,五九二	二,九八八,五五九	一八五,〇八九	六四四,五九二	二,九八八,五五九	一八五,〇八九
		一八九	二〇六			一八九	二〇六	
		一三三,三三三	五三,八三三			一三三,三三三	五三,八三三	
		三七,〇〇〇	一七,一九三			三七,〇〇〇	一七,一九三	
一	八九	二四	二二	二	二	二二	二	二
一四,七四〇	一,五七七,二五〇	八,三四五,〇〇二	二,〇六五,三〇〇	二,九八八,五五九	五九〇,〇九〇	二,〇六五,三〇〇	二,九八八,五五九	五九〇,〇九〇
四,八〇〇	六八,四七	二,〇三〇,〇九二	六四四,五九二	二,九八八,五五九	一八五,〇八九	六四四,五九二	二,九八八,五五九	一八五,〇八九
		一八九	二〇六			一八九	二〇六	
		一三三,三三三	五三,八三三			一三三,三三三	五三,八三三	
		三七,〇〇〇	一七,一九三			三七,〇〇〇	一七,一九三	

前記要求工事千六百件の内道路後修を要したるもの九百九件金額一萬三千七百六十三圓二十六錢ありたり、其の支拂狀況を示せば左の如し。

事業者	昭和三年度		昭和四年度		昭和五年度		支拂未済		計
	件數	金額	件數	金額	件數	金額	件數	金額	
市水道局	九	一、〇七二・四一 <sup>円</sup>	三	三九四・二、八六〇・三 <sup>円</sup>	五	九三、三三・七 <sup>円</sup>	一	九二・二 <sup>円</sup>	八、一七六・八一 <sup>円</sup>
市電氣局	一	—	四	一、四〇・三 <sup>円</sup>	一〇〇	—	—	—	一、四〇・三 <sup>円</sup>
東京電燈株式會社	三	四四・四七	四	八六三・〇九	八五	三三・六九	三	七七・九	一、〇一八・四
東京瓦斯株式會社	一七	四〇二・五六	九	二七二、六七・六 <sup>円</sup>	六	二九五・四五	一	三六八・三	四、三六三・八七
計	二四九	一、五九・四	二二	六九六、五五・四〇	四八	一六四、二八九・九 <sup>円</sup>	三	五一、三五八・五 <sup>円</sup>	一三、七六三・二六

第二 非要求工事

本地區に於ける非要求工事は二千三百五十件其の延長八千七十六間一一六、掘鑿面坪二千七百五坪六五三にして、之を事業者別に見るときは市水道局三百八十六件其の延長千六百六十六間六六五、掘鑿面坪三百八十九坪〇七九、市土木局下水課三件其の延長八百四十間二三、掘鑿面坪四百八坪一三一、市電氣局七件其の延長二百九十二間〇一四、掘鑿面坪百十七坪一六五、東京電燈株式會社三十二件其の延長百九十九間五、掘鑿面坪百二坪九、東京瓦斯株式會社千九百二十二件其の延長五千五百七十七間七〇七、掘鑿面坪千六百八十八坪三七八なり、尙之を類別すれば大掘鑿八十件其の延長三千七百三十七間四四四、掘鑿面坪千三百九十六坪五二六、小掘鑿二千二百七十件其の延長四千三百三十八間六七二、掘鑿面坪千

掘鑿面坪千三百九十六坪五二六、小掘鑿二千二百七十件其の延長四千三百三十八間六七二、掘鑿面坪千

三百九坪一二七なり、其の事業者別許可又は承認状況を示せば左の如し。

年	度	大掘鑿		小掘鑿		計	
		件數	延長	掘鑿面坪	件數	延長	掘鑿面坪
二昭和	年和	市水道局	一	間	四	八間・二六六	三・二八六坪
		東京電燈株式會社	三	九・〇〇〇	一	九・〇〇〇	四・三〇〇
計	東京瓦斯株式會社	二	五〇・〇〇〇	一六	二〇二・六六六	六〇・八〇〇	
		五	五九・〇〇〇	一六	二九一・八三三	九・九八六	
市水道局	市電氣局	四	四七・五〇〇	一六	五七・六六六	一九・二〇一	
		五	一四・一七四	一	一	一	
三昭和	年和	市水道局	一	一	一	一	一
		東京電燈株式會社	一五	四九・〇〇〇	一	一	一
計	東京瓦斯株式會社	三	三六九・〇〇〇	一七	二九二・三三三	九七・三三三	
		三	九七・六〇〇	一七	二九二・三三三	九七・三三三	
市水道局	市電氣局	三	三六九・〇〇〇	一七	二九二・三三三	九七・三三三	
		三	三六九・〇〇〇	一七	二九二・三三三	九七・三三三	
四昭和	年和	市水道局	一	一	一	一	一
		市土木局下水課	三	八四〇・三三〇	一	一	一
計	市電氣局	二	一五・八四〇	一	一	一	
		東京電燈株式會社	一四	一四・五〇〇	一	一	一
東京瓦斯株式會社	東京電燈株式會社	一九	一九一・五九〇	一	一	一	
		一九	一九一・五九〇	一	一	一	
計	東京瓦斯株式會社	三	三六九・〇〇〇	一七	二九二・三三三	九七・三三三	
		三	三六九・〇〇〇	一七	二九二・三三三	九七・三三三	
市水道局	市電氣局	三	三六九・〇〇〇	一七	二九二・三三三	九七・三三三	
		三	三六九・〇〇〇	一七	二九二・三三三	九七・三三三	
三昭和	年和	市水道局	一	一	一	一	一
		東京電燈株式會社	一五	四九・〇〇〇	一	一	一
計	東京瓦斯株式會社	三	三六九・〇〇〇	一七	二九二・三三三	九七・三三三	
		三	三六九・〇〇〇	一七	二九二・三三三	九七・三三三	
市水道局	市電氣局	三	三六九・〇〇〇	一七	二九二・三三三	九七・三三三	
		三	三六九・〇〇〇	一七	二九二・三三三	九七・三三三	
四昭和	年和	市水道局	一	一	一	一	一
		市土木局下水課	三	八四〇・三三〇	一	一	一
計	市電氣局	二	一五・八四〇	一	一	一	
		東京電燈株式會社	一四	一四・五〇〇	一	一	一
東京瓦斯株式會社	東京電燈株式會社	一九	一九一・五九〇	一	一	一	
		一九	一九一・五九〇	一	一	一	
計	東京瓦斯株式會社	三	三六九・〇〇〇	一七	二九二・三三三	九七・三三三	
		三	三六九・〇〇〇	一七	二九二・三三三	九七・三三三	
市水道局	市電氣局	三	三六九・〇〇〇	一七	二九二・三三三	九七・三三三	
		三	三六九・〇〇〇	一七	二九二・三三三	九七・三三三	

第三十九地區 丙 地下埋設物其他工作物整理





第四十地區

瓦 電			
計	纜		
管 電	東 市		
線	電 電		
路 柱 斯	電 電		
二〇、六二〇・四〇〇 間 一九本	八、一六三・七〇〇 間 二九本	五、二一九 間	五、五六・二〇〇 間
八、六四〇・三三〇 間 二四本	五、二二〇・七〇〇 間 二四本	八〇二・九二〇 間	二、〇八〇・四五〇 間
二、三六〇・五〇〇 間	一、三九五・〇〇〇 間		
三、一六三・二三四 間 二四本	一四、七六九・四〇〇 間 二四本	八五四・二〇四 間	二、六三六・六五〇 間

電 柱 東 市 電 電

二七本 二

二一本 三

三六本 五

廣州 廣東省

廣州	廣東省	廣州	廣東省	廣州	廣東省
廣州	廣東省	廣州	廣東省	廣州	廣東省
廣州	廣東省	廣州	廣東省	廣州	廣東省
廣州	廣東省	廣州	廣東省	廣州	廣東省
廣州	廣東省	廣州	廣東省	廣州	廣東省

廣州 廣東省

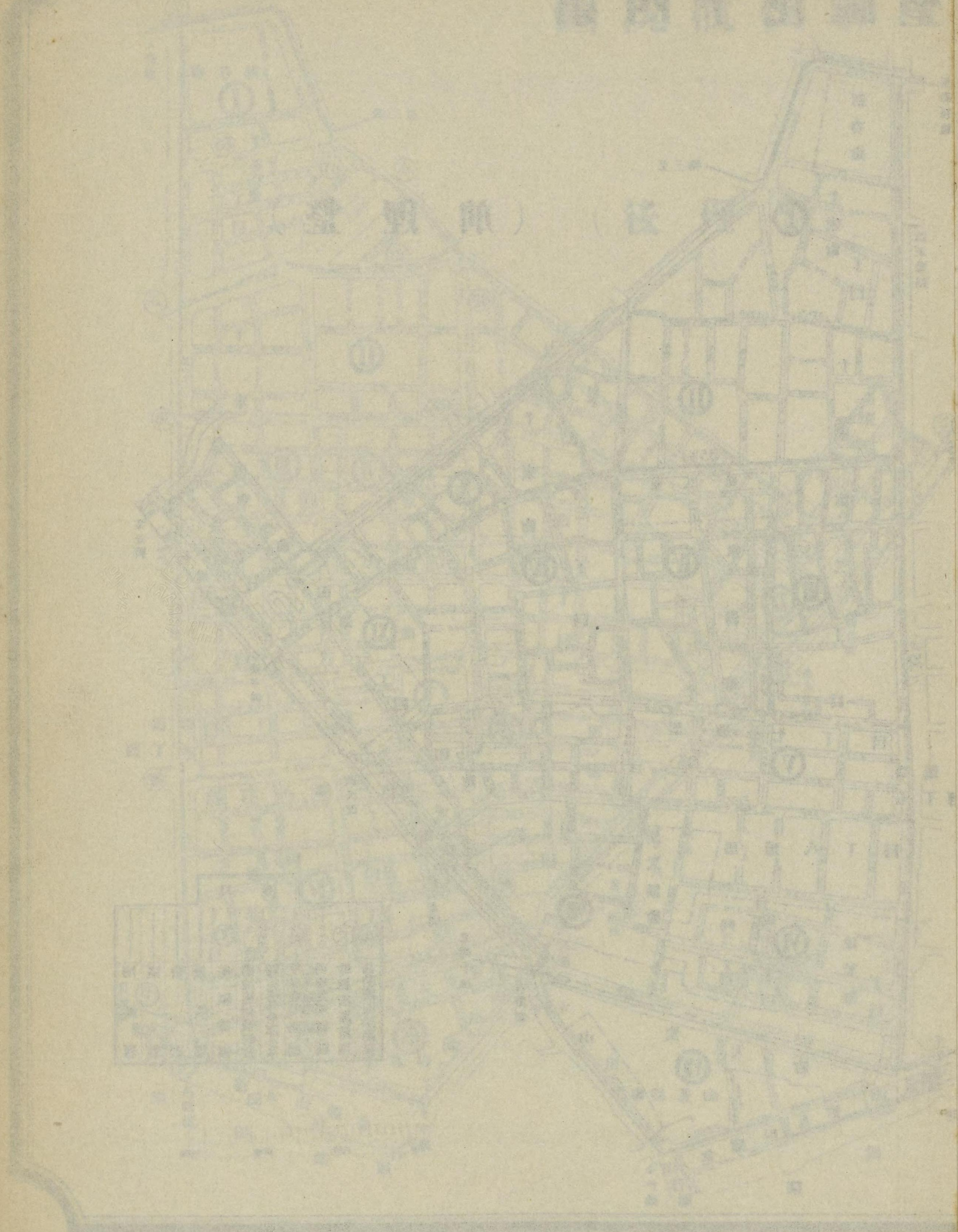
廣州 廣東省

廣州	廣東省	廣州	廣東省	廣州	廣東省
廣州	廣東省	廣州	廣東省	廣州	廣東省
廣州	廣東省	廣州	廣東省	廣州	廣東省
廣州	廣東省	廣州	廣東省	廣州	廣東省
廣州	廣東省	廣州	廣東省	廣州	廣東省

第四十地區

樂四十戲圖

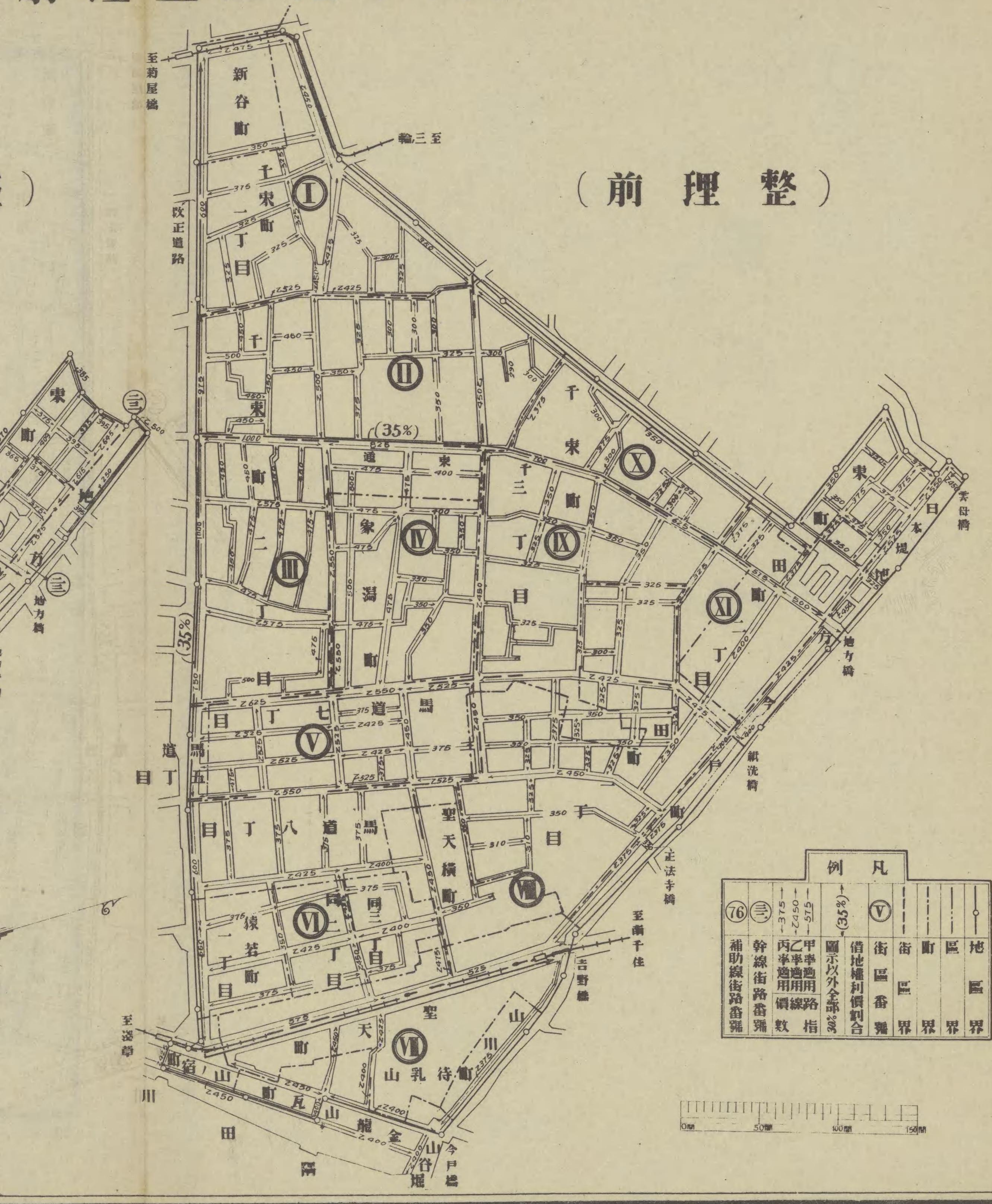
蘇州府城圖



蘇州府城圖

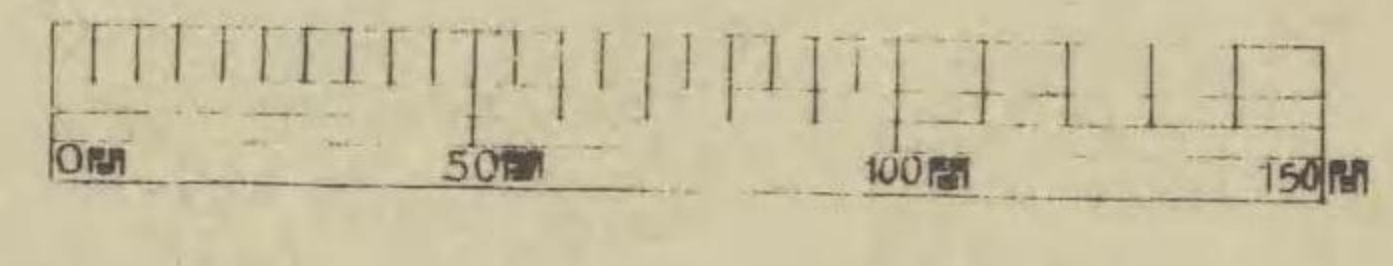
# 前理整區地十四第

(前理整)



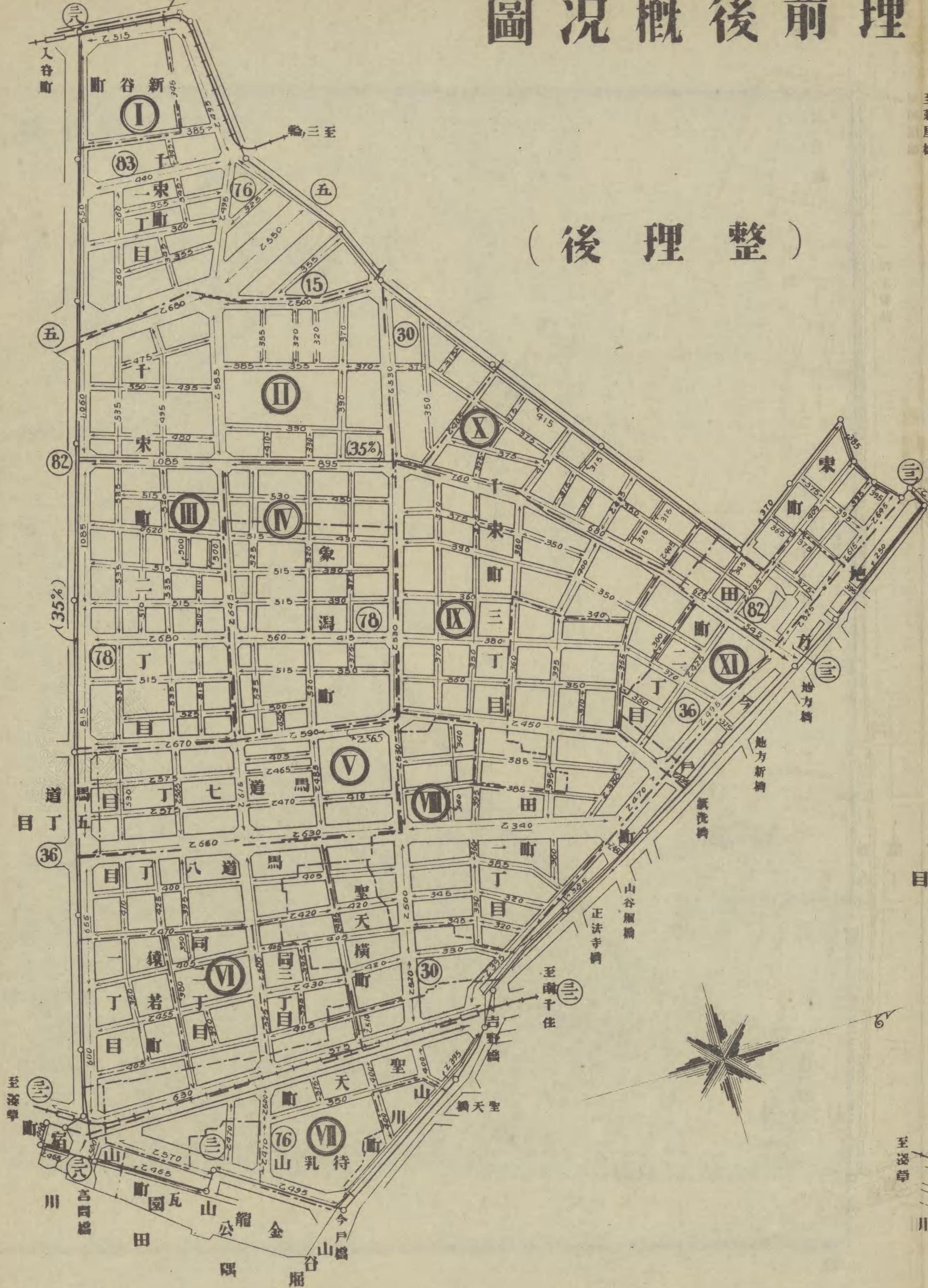
例凡

(76)	三	375	2450	515	(35%)	V	— — — — —	— — — — —	— — — — —	— — — — —	— — — — —	— — — — —
補助線街路番號	幹線街路番號	丙半適用價數	乙半適用價數	甲半適用價數	圖示以外全部%	借地權利割合	街區番號	街區界	町區界	區區界	地區界	

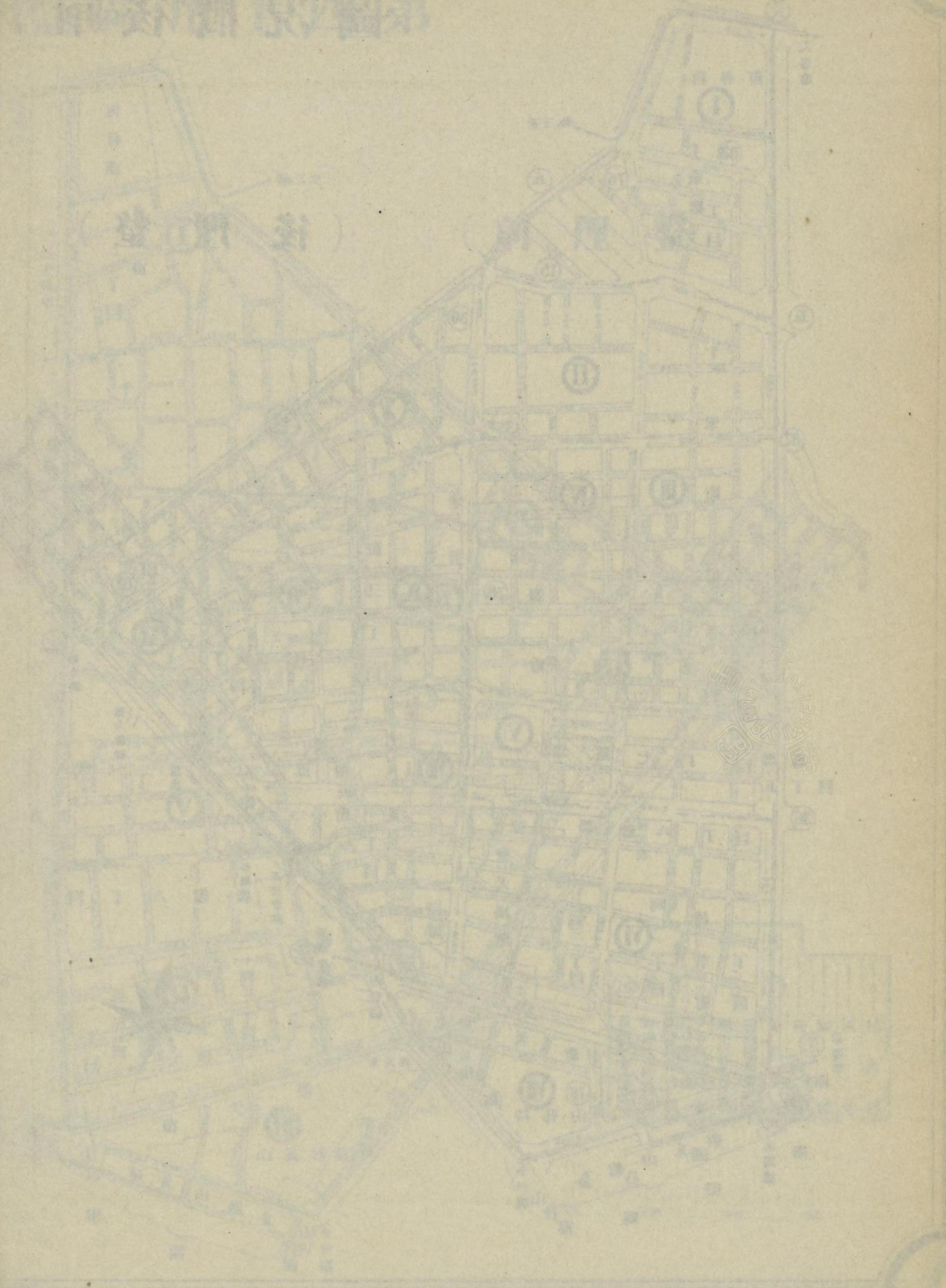


# 第十四地整區前理後概況圖

(後理整)

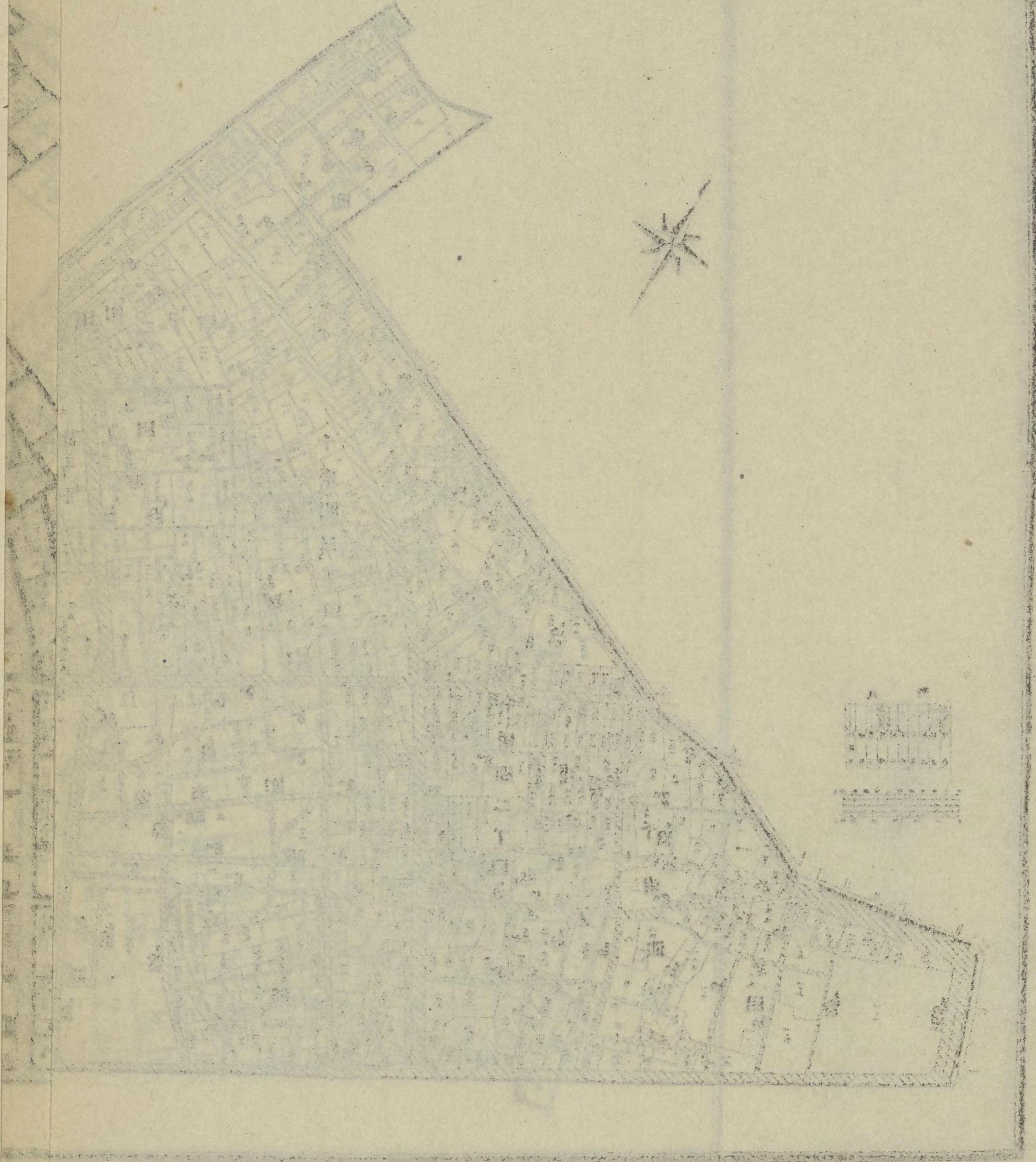


第 一 卷 新 加 坡 地 圖



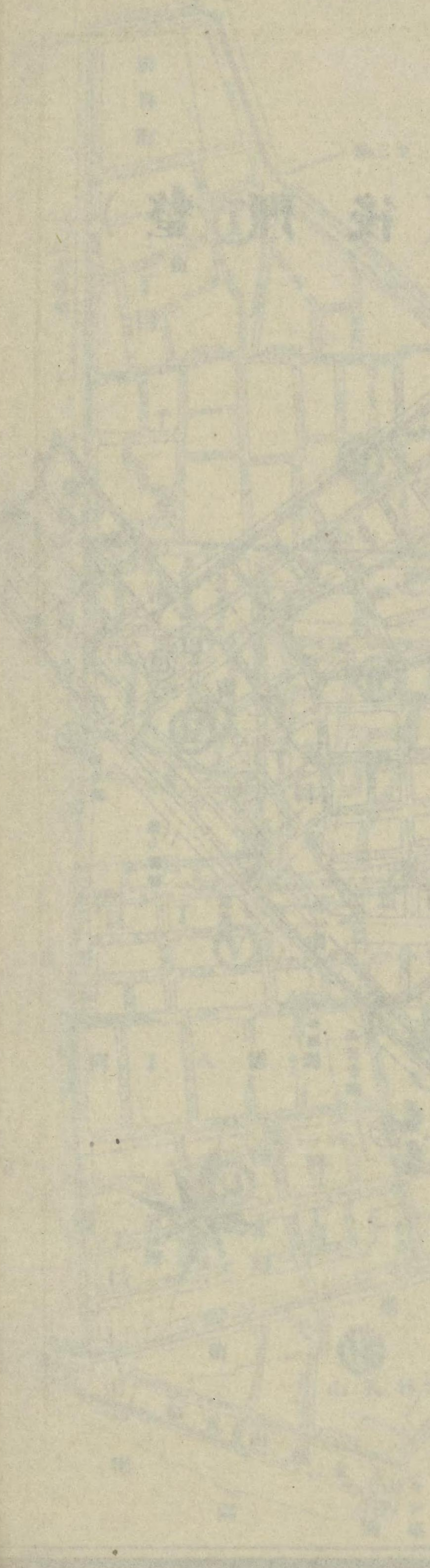


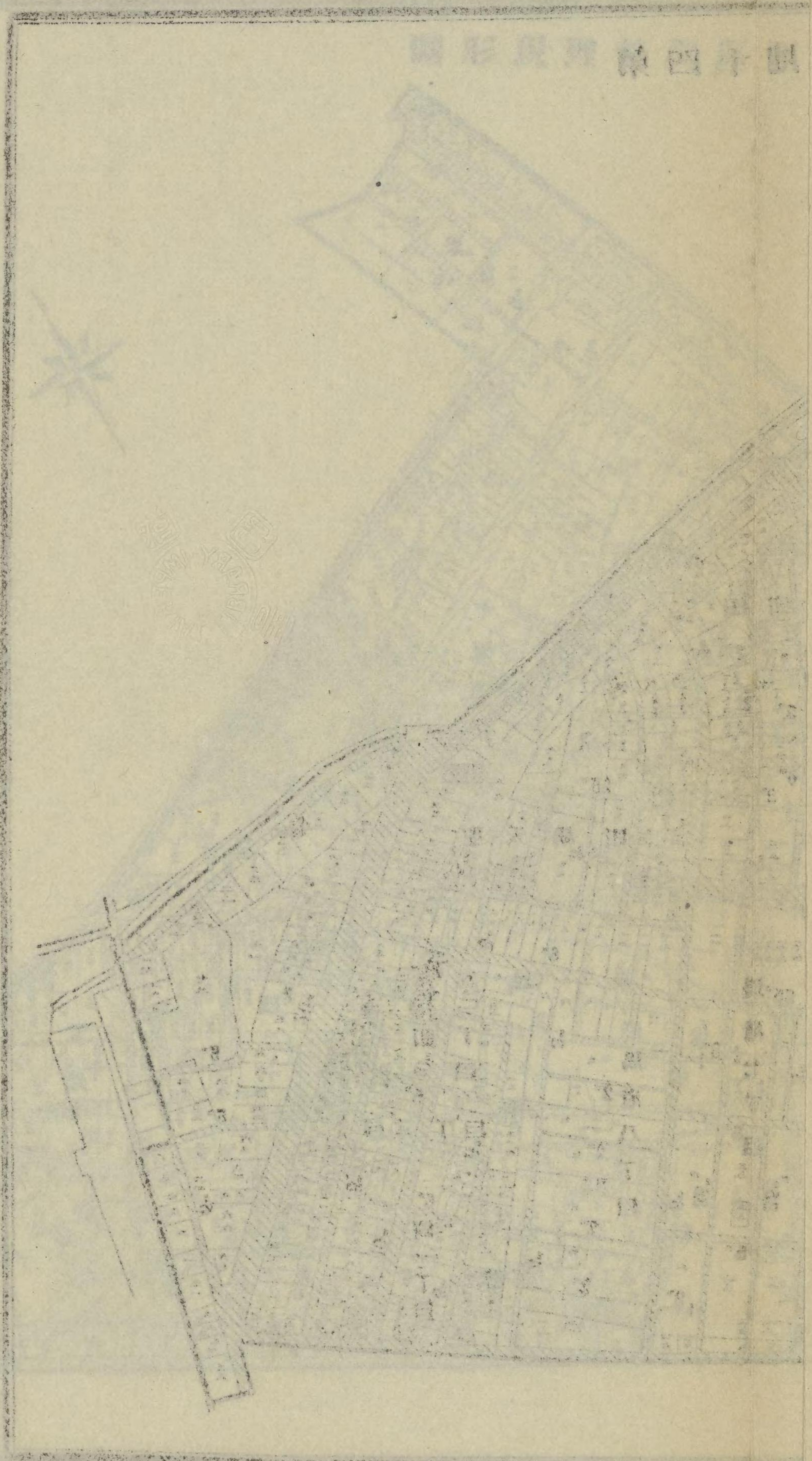
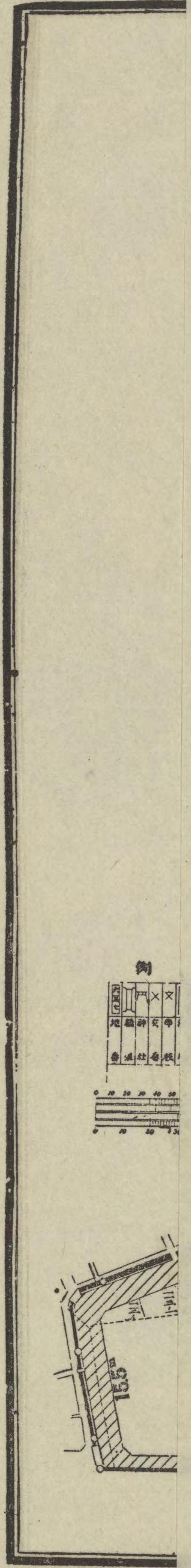
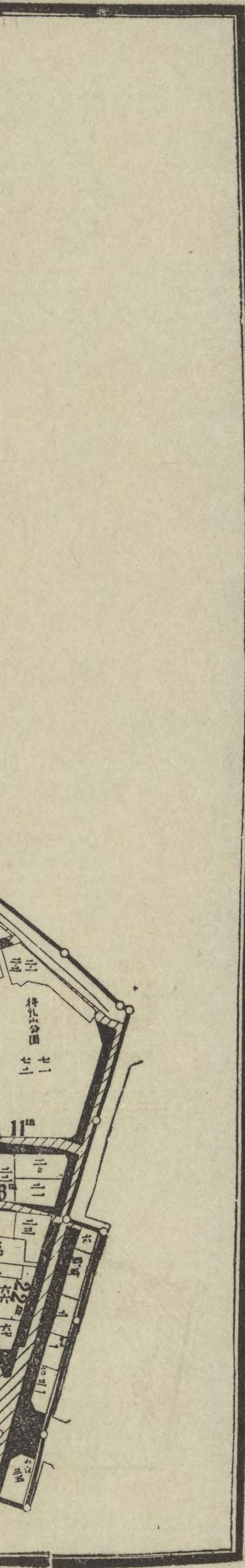
圖說陽曆與陰曆



圖說陽曆與陰曆

圖說陽曆與陰曆



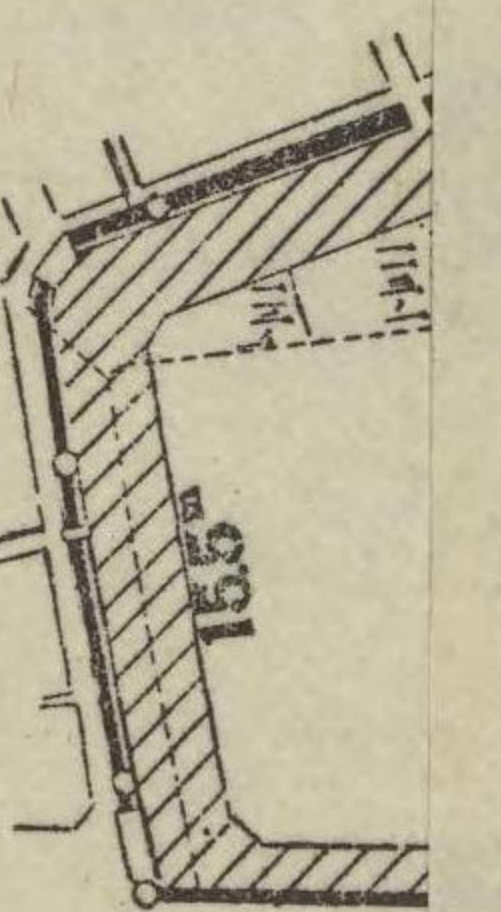
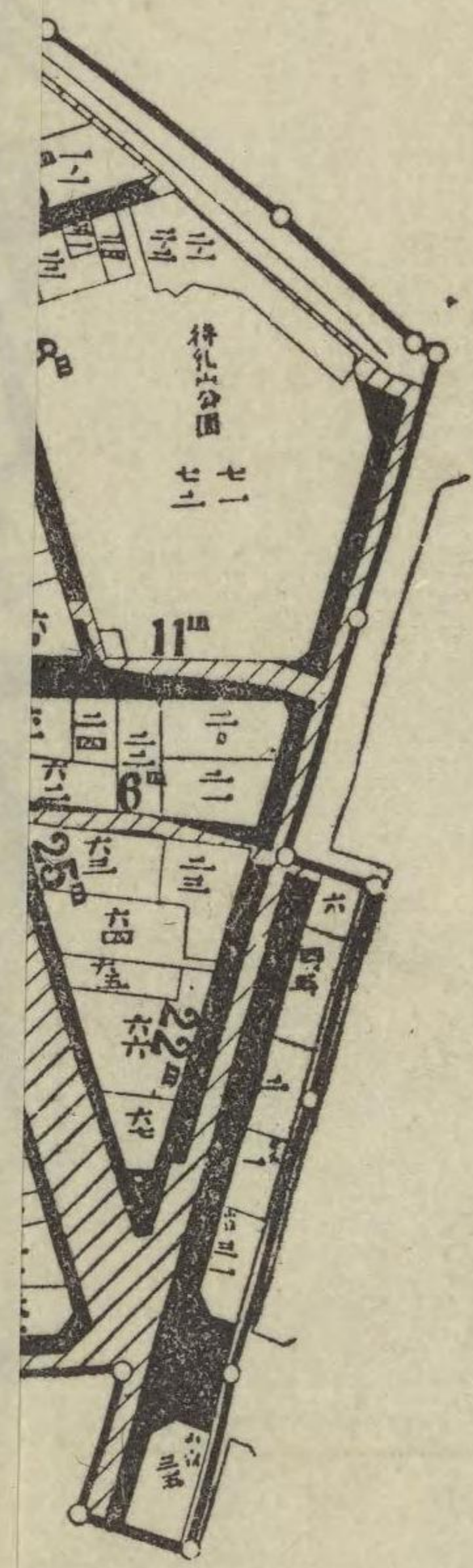
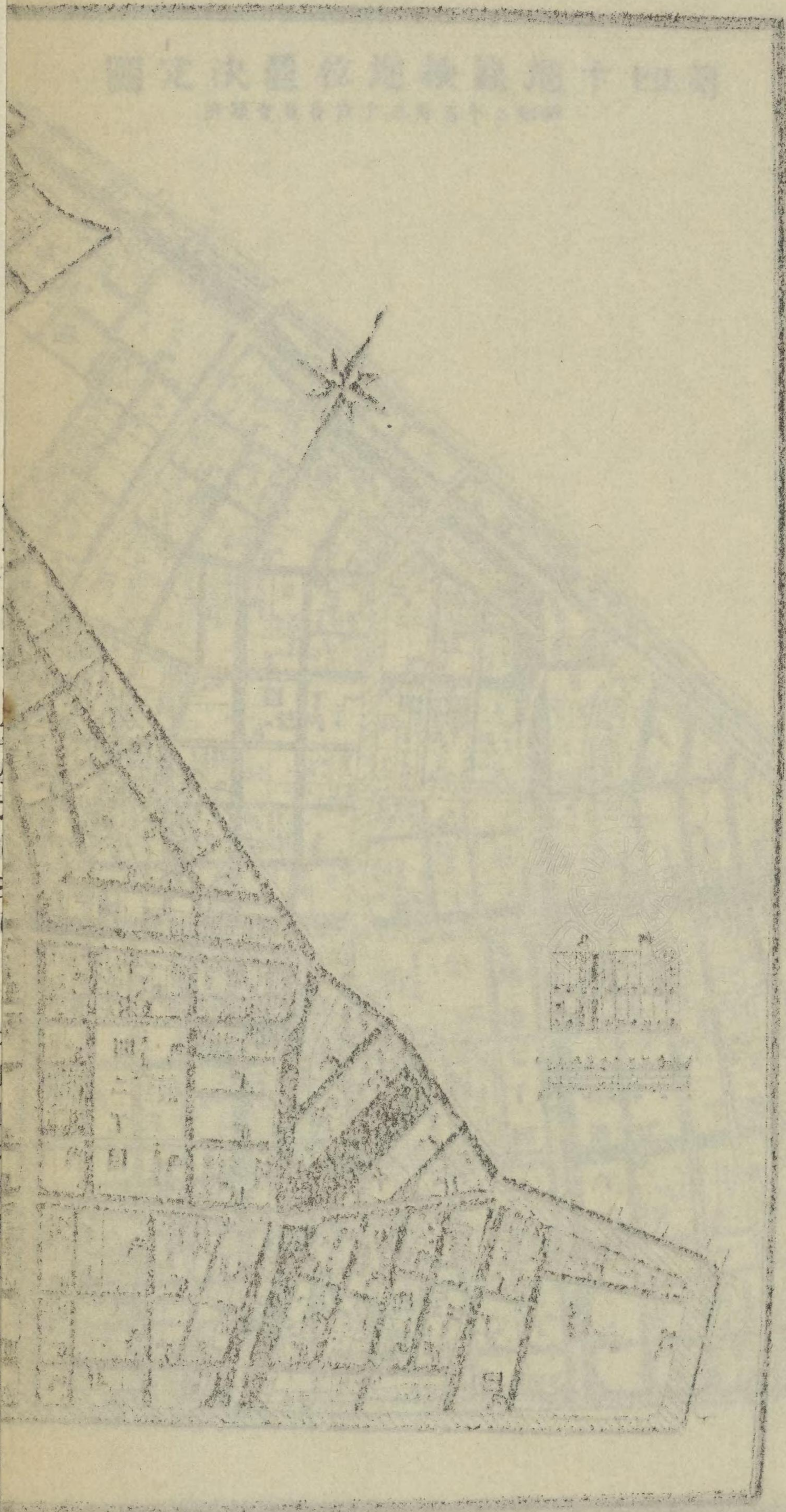


圖影畫界 殿四子凱

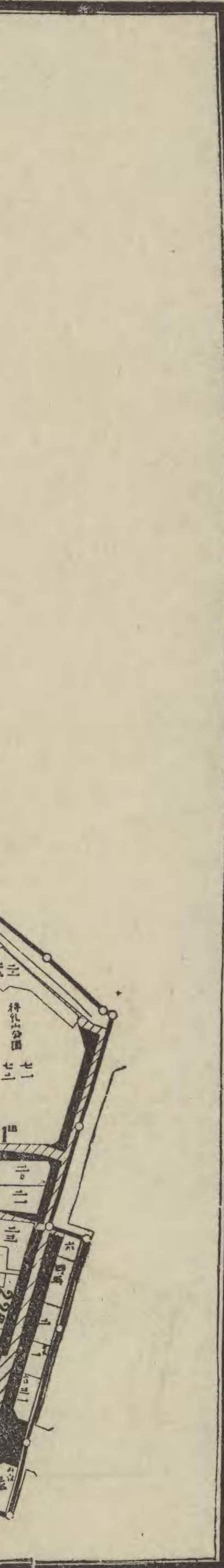
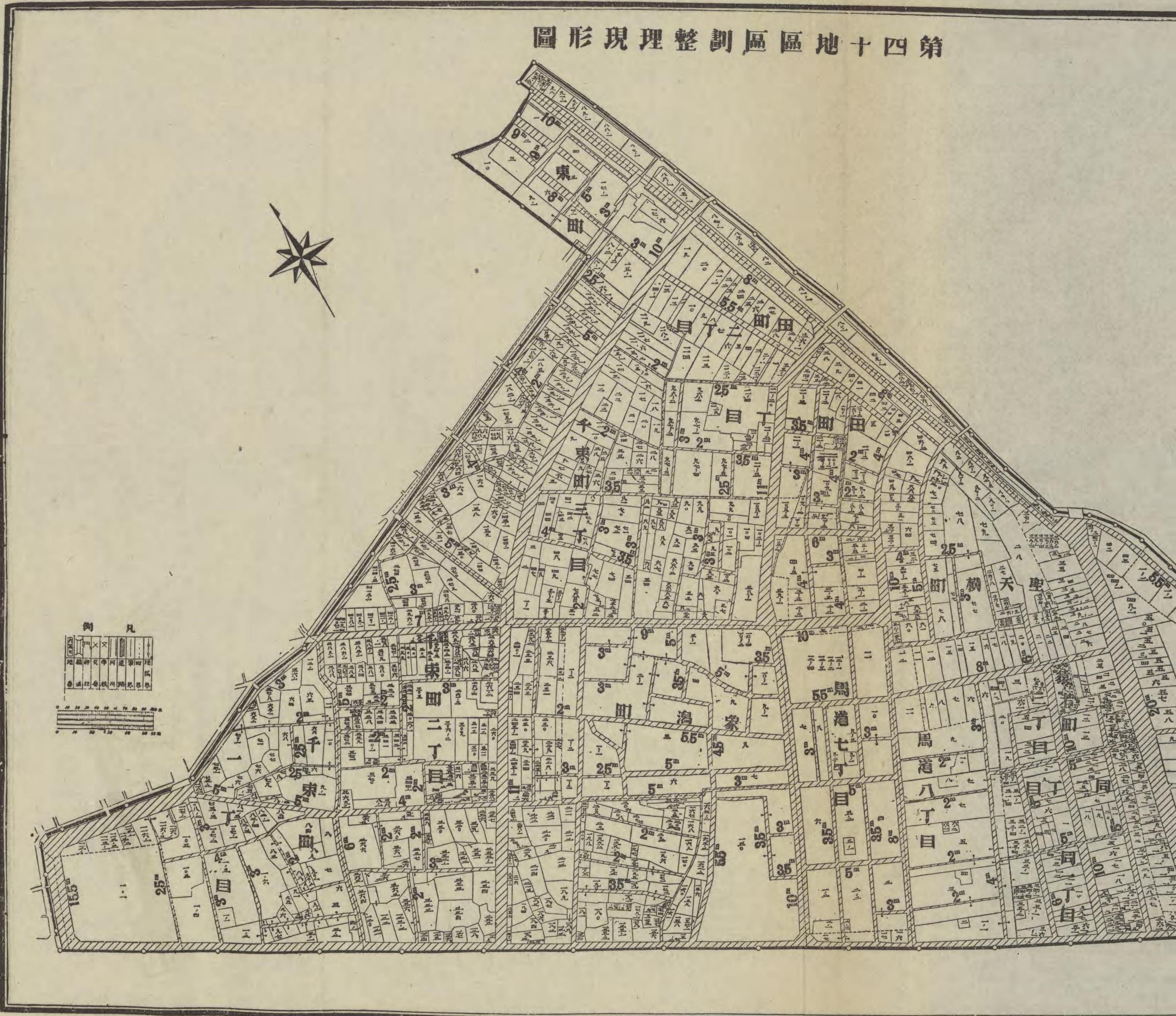
第四十地区の整理前地区の概況

第四十地区

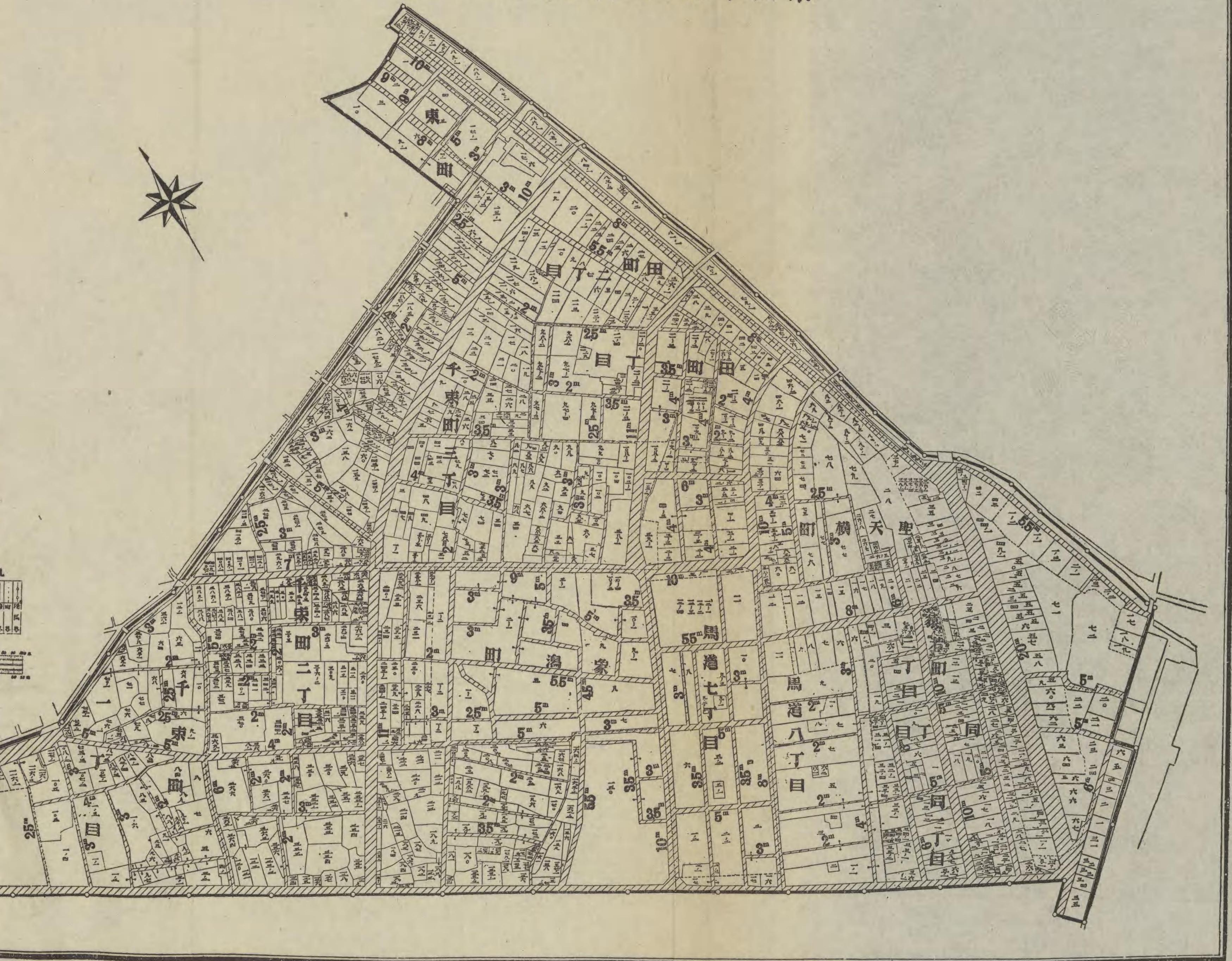
整理前地区の概況



第十四地區劃整現形圖

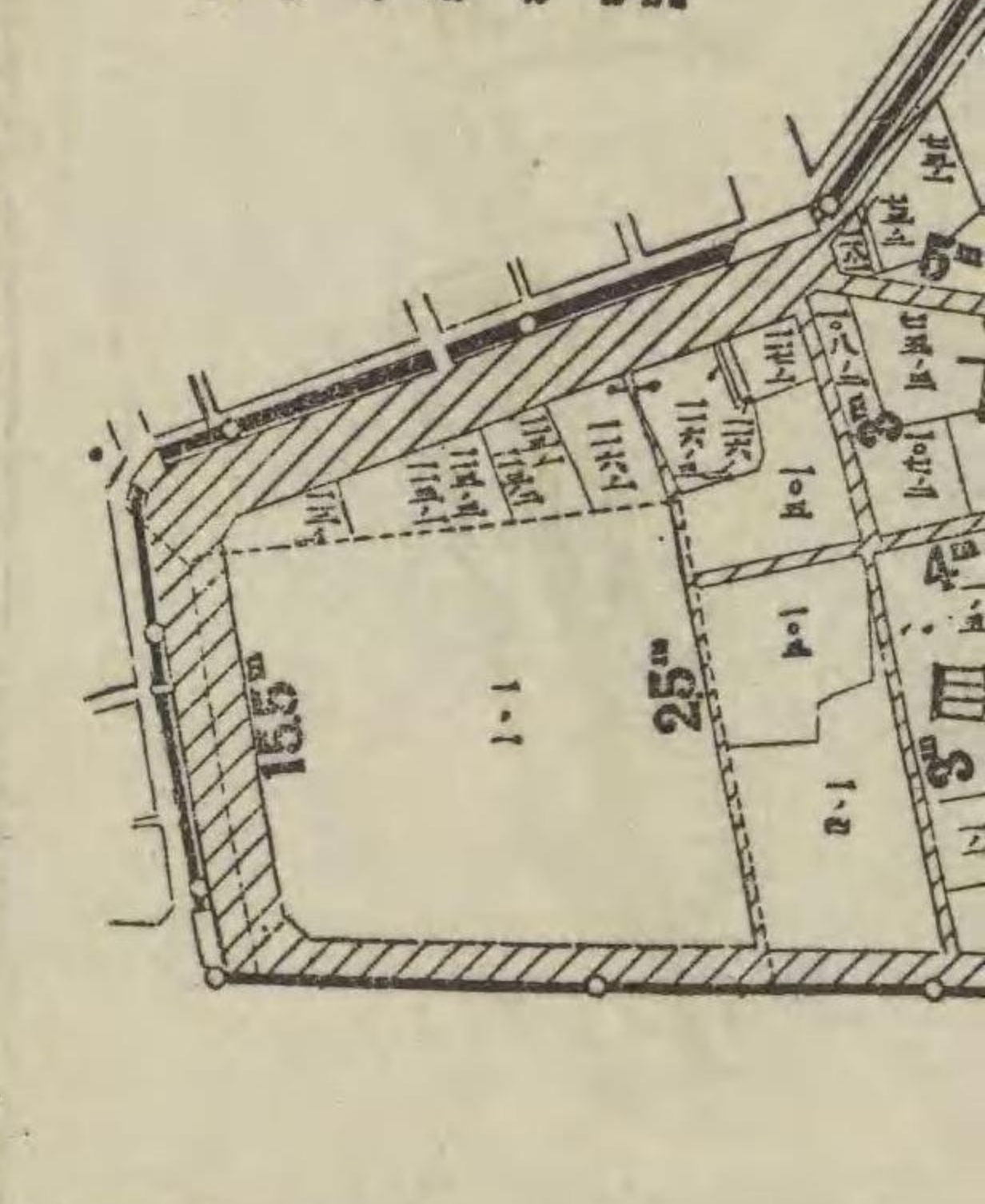
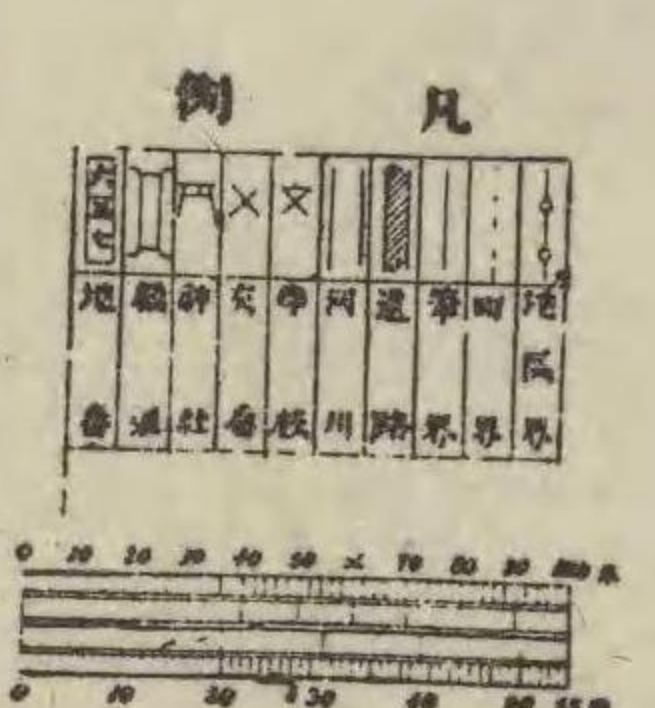
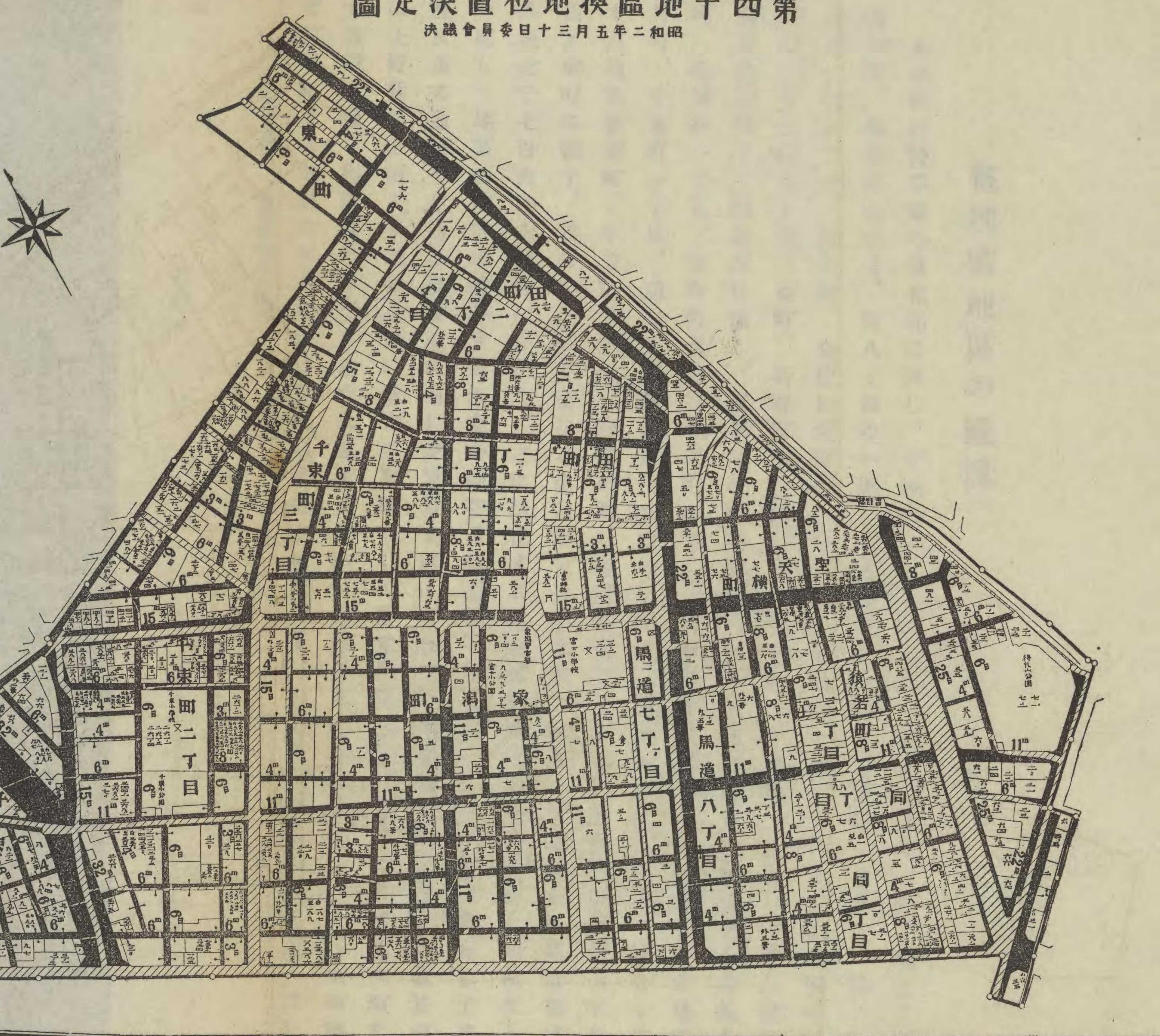


第十四地區劃整現形圖



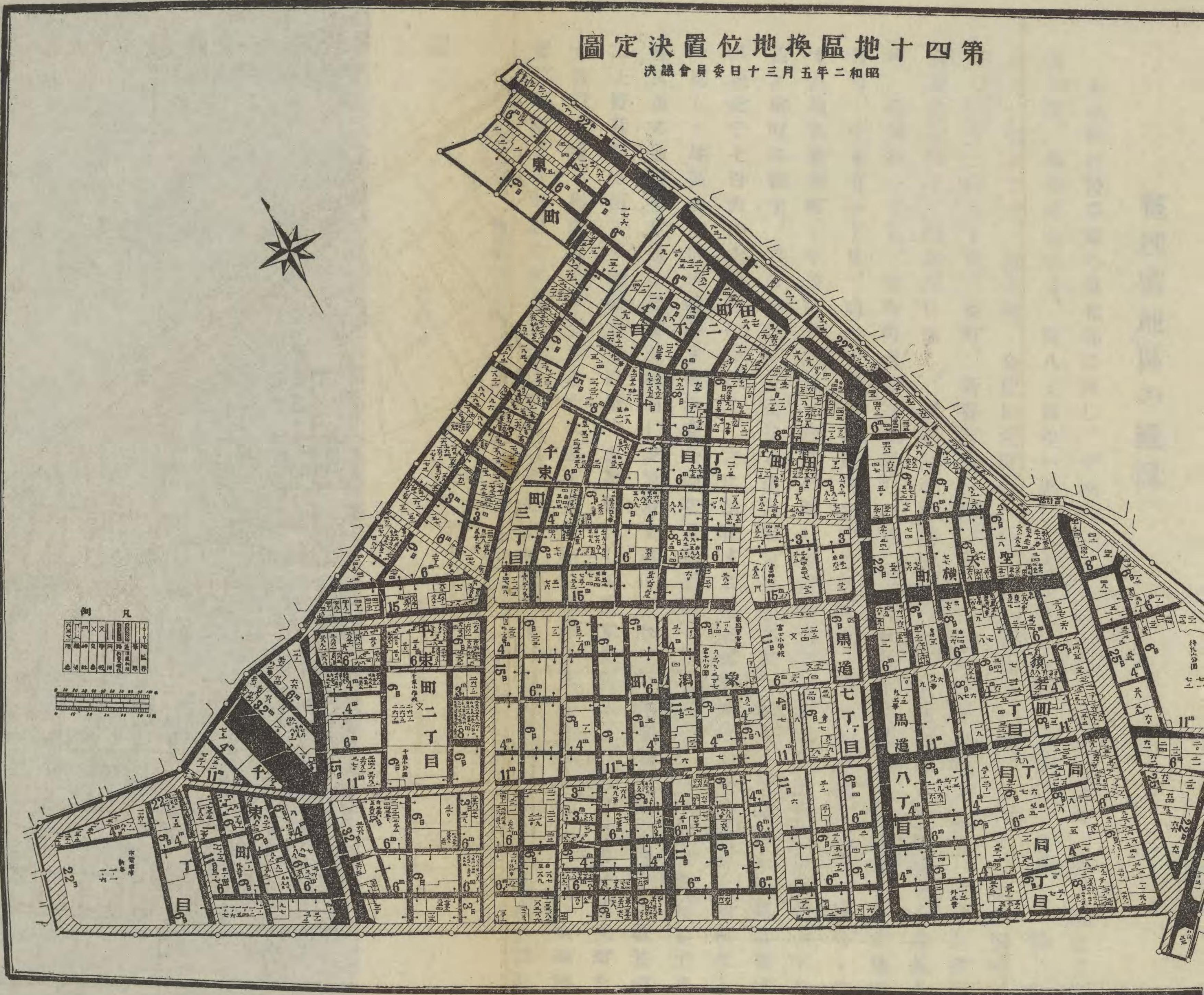
第十四地換區地位置決定圖

昭和二年五月三十日委員會議決



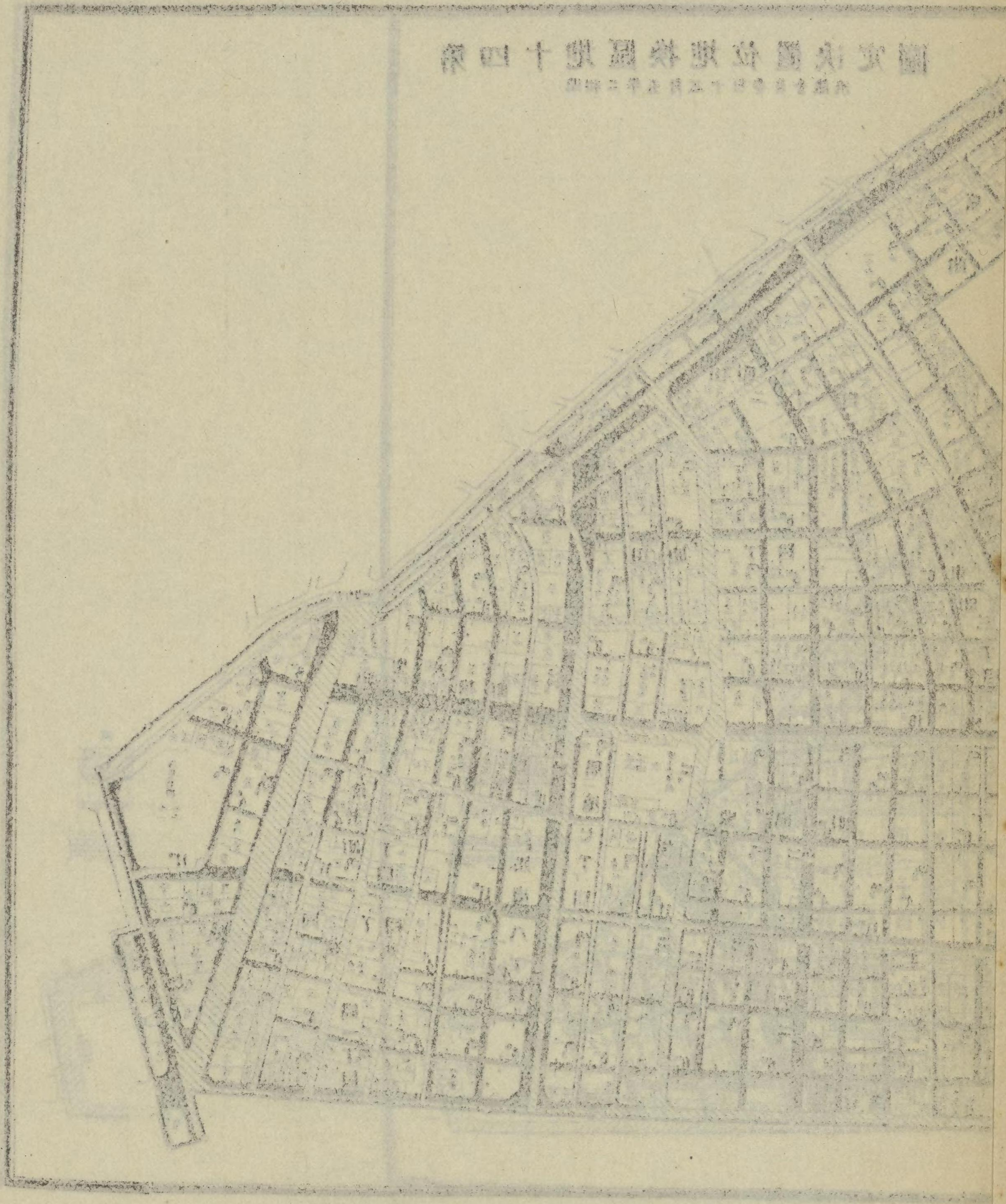
第十四地段換地位置決定圖

昭和二年五月十三日委員會決議



圖式新式四十四號

民國二年五月二十日





## 整理前地區の概況

本地區は淺草區の東北部に位し、千束町一丁目の一部、同二丁目の一部、同三丁目、象潟町、馬道町七丁目、同八丁目の一部、同五丁目の一部、猿若町一丁目の一部、同二丁目、同三丁目、聖天町、金龍山瓦町の一部、山ノ宿町の一部、山川町、聖天横町、田町一丁目、同二丁目、東町、新谷町の一部、地方今戸町の一部を包括し、東南は隅田公園敷地を隔て、隅田川に面し、東北は日本堤沿ひの山谷堀川を挟みて第四十一地區今戸町、龜岡町一丁目、吉野町及地方今戸町に對し、西北は千束堀川を以て第三十九地區光月町、千束町一丁目、同二丁目及地區外新吉原に界し、南は通稱改正道路を隔て、第三十八地區新谷町、千束町二丁目、淺草公園、馬道町五丁目、同八丁目、猿若町一丁目及山ノ宿町に接す、其の形狀は不正なる多角形をなし地勢平坦なり、本地區の總面積は十八萬七千七百六坪七合四勺にして、之に所在する建物總棟數は六千九百八十六棟なり。而して地區の南部に隣接する淺草公園花屋敷西側より北走し、千束堀に並行して日本堤に至る通稱千束通は新吉原に通じ交通最も多く、地區の南部地區界を通ずる改正道路は上野鶯谷方面より淺草東部に達する要路にして商業殷盛なり、地區の東部聖天町を通ずる電車通、馬道町の中部を南北に通ずる街路、淺草公園觀世音堂裏より北へ象潟警察署前を経て日本堤に至る街路は商業の繁盛之に次げり、本地區の南部には淺草公園を擁

し、西北部地區外には新吉原遊廓あり且地區内千束町二丁目の一帯は花柳街なるを以て此附近東町、田町二丁目、千束町三丁目及同二丁目内は飲食店、雜貨店等軒を竝べ、地方今戸町には木材商、猿若町及聖天町方面には皮革商、下駄表製作業者多く、其の他は何れも小商店住宅にして諸演藝に従事するもの多數住居す、新谷町には市電車庫、千束町二丁目に東京市千束尋常小學校、宮戸座、象潟町に象潟警察署、法善寺、日音寺其他寺院多く、馬道町七丁目に東京市富士尋常小學校、聖天町に待乳山公園（園内に聖天堂あり）本龍院、西方寺、聖天横町に遍照院、千束町三丁目に富士神社、田町三丁目に本市下水唧筒場あり、尙東端隅田川岸には竹屋の渡し場ありて對岸向島への要路たり。

# 甲 整 地

## 第一章 土地區劃整理委員會

### 第一節 委 員

#### 第一 土地區劃整理委員及同補闕委員の選舉

第四十地區土地區劃整理委員及同補闕委員の定數は各十八人にして、其の選舉を大正十三年九月六日淺草區淺草公園内傳法院に於て執行したるに、何れも左記の通常選したり。

##### 一 土地區劃整理委員

###### 土地所有者の部

松崎權四郎

毛塚清兵衛

島 多 郎

大和延太郎

大瀧福之助

佐伯昌道

八木新吉

島口與茂作

上原伊助

###### 借地權者の部

松崎政吉

大野龜吉

大久保源之丞

細沼徳治

稻見徳太郎

三國彌之助

岸田源次郎

瀧野國吉

新村喜一郎

##### 二 同上補闕委員

###### 土地所有者の部

松崎文次

無 動 院

梅村正太郎

越田重次郎

前田平 亮

川喜多龍太郎

松本松太郎

吉澤喜代藏

第四十地區 甲 整 地

借地権者の部

伊藤専太郎	宮本吉太郎	石井山太郎	岡野八右衛門	榎正元
浅田徳次郎	小林仁太郎	松浦好藏	長堀文吉	

第二 議長並副議長の選挙

大正十三年九月二十七日東京市富士尋常小學校に招集したる第一回土地區劃整理委員會に於て、假議長上原伊助、議長及副議長の選挙を執行したるに、左記の通常選したり。

議長	松崎權四郎	副議長	新村喜一郎
----	-------	-----	-------

第三 土地區劃整理委員の異動

土地區劃整理委員は換地處分の結了に至るまで左の如く異動したり。

一 土地所有者選出委員佐伯昌道大正十三年十二月十四日死亡したるに因り、同十四年一月七日同補闕委員松崎文次補充せらる。

一 土地所有者選出委員島多郎昭和三年九月一日死亡したるに因り、同月十八日同補闕委員無動院(代表出席者住職大森公亮)補充せらる。

第二節 諮問及答申

一 諮問第一號 整理前土地面積決定期日に關する件

土地區劃整理換地配當の標準たる従前の土地面積は、大正十四年五月十日現在の土地臺帳面積に依らむとす、但し四月三十日限東京市役所に出願したるものにして、訂正を受けたるときは其の面積に依るものとす。

右大正十四年三月二十九日諮問 同日修正決議の上答申

依るものとす。

右大正十四年三月二十九日諮問 同日修正決議の上答申

議事要綱

本件に關しては慎重審議の結果土地臺帳面積決定期日を大正十四年七月十日に、面積誤謬訂正出願期日を同年六月三十日に修正決議せり。

二 諮問第二號 換地位置決定に關する件 (地區全部)

大正十四年三月二十九日諮問 委員會九回 協議會十四回開催  
同年十月二十二日より昭和二年五月三十日に至る八回に修正決議の上答申

三 諮問第三號 整理前路線價指數並土地各筆平均坪當指數に關する件 (地區全部)

大正十四年十月十三日諮問 委員會二回 協議會一回開催  
同年十二月十六日整理前路線價指數のみ原案可決の上答申 各筆平均坪當指數は昭和四年七月二日撤回

議事要綱

本件に關しては全員協議會に於て討議研究の上、路線價指數のみ原案を承認することとし、之を本會議に於て左記條件を附して可決せしも、土地各筆平均坪當指數に付ては決定を見ざりしを以て、當局は昭和四年七月二日同案を撤回し、更に諮問第九號を以て之を提案したり (諮問第九號參照)

記

「換地面積決定に際し止むを得ざる場合に限り委員會の決議を経て修正することを得」

四 諮問第四號 整理後路線價指數に關する件 (地區全部)

大正十五年十月十一日諮問 委員會二回 協議會三回開催 昭和四年七月二日撤回

議事要綱

本件に關しては委員會及協議會に於て討議研究せるも、遂に決するに至らざりしを以て之を撤回し、

更に昭和四年七月二日諮問第十號を以て之を提案せり。

五 諮問第五號

換地面積並換地位置變更及整理後土地各筆平均坪當指數に關する件

(千東町一

丁目、千東町二丁目、千東町三丁目、田町一丁目、各一部、象潟町、馬道町五丁目、馬道町七丁目、馬道町八丁目、田町二丁目、  
聖天町、聖天横町、山川町、金龍山瓦町、山ノ宿町、地方今戸町、東町、猿若町一丁目、猿若町二丁目、猿若町三丁目、各全部)

大正十五年十月十一日諮問 委員會四回 協議會二回開催

同日より昭和二年二月十六日迄三回に換地面積並換地位置變更のみ修正決議の上其の都度答申し、土地各筆平均坪當指數は昭和四年七月二日撤回

議事要綱

本件に關しては慎重審議を重ねたる結果換地面積並換地位置變更案のみ修正決議せるも、土地各筆平均坪當指數に付ては決定に至らず、依て當局は昭和四年七月二日同案を撤回し、更に諮問第十二號として全地區を一括提案したり。(諮問第十(二號参照))

六 諮問第六號

換地面積並整理後土地各筆平均坪當指數に關する件

(千東町一丁目、千東町二丁目、千東町三丁目、田町一丁目、各一部)

昭和二年三月二十九日諮問 委員會五回 協議會三回開催 同日より昭和二年八月五日迄五回に換地面積のみ修正決議の上其の都度答申し、土地各筆平均坪當指數は昭和四年七月二日撤回

議事要綱

前號に同じ

七 諮問第七號

換地位置並換地面積一部變更に關する件

(聖天町の二部)

昭和三年十月八日諮問 同日原案可決の上答申

七 諮問第七號 換地位置並換地面積一部變更に関する件(の一部)

昭和三年十月八日諮問 同日原案可決の上答申

八 諮問第八號 整理前路線價指數一部變更に関する件

昭和四年七月二日諮問 委員會二回 協議會一回開催 同月三十日原案可決の上答申

九 諮問第九號 整理前土地各筆平均坪當指數に関する件(地區全部)

昭和四年七月二日諮問 委員會二回 協議會一回開催 同月三十日原案可決の上答申

議事要綱

本件に關しては曩に諮問第三號として提案し一旦撤回せるものにして、更に本案として諮問し慎重審議の結果原案の通可決せり。

一〇 諮問第十號 整理後路線價指數に関する件(地區全部)

昭和四年七月二日諮問 委員會二回 協議會一回開催 同月三十日原案可決の上答申

議事要綱

本件に關しては曩に諮問第四號として提案し一旦撤回せるものにして、更に本案として諮問し慎重審議の結果原案の通可決せり。

一一 諮問第十一號 換地面積一部變更に関する件(千東町一丁目、千東町二丁目、千東町三丁目、馬道町八丁目、猿若町二丁目、猿若町三丁目、馬道町七丁目、)

田町一丁目、田町二丁目、田町三丁目、金龍山瓦町、山川町、地方今戸町、東町の各一部

昭和四年七月二日諮問 委員會二回 協議會一回開催 同月三十日原案可決の上答申

一二 諮問第十二號 整理後土地各筆平均坪當指數に関する件(地區全部)

昭和四年七月二日諮問 委員會二回 協議會一回開催 同月三十日原案可決の上答申

議事要綱

本件に關しては曩に諮問第五號案及第六號案として換地面積決定並位置變更案と一括諮問せしも、

換地面積決定並位置變更のみを決定し、整理後各筆平均坪當指數に付ては決定を見ざりしを以て、更に本案として諮問し慎重審議の結果原案の通可決せり。

一三 諮問第十三號 土地各筆清算に關する件

昭和四年七月二日諮問 委員會二回 協議會一回開催 同月三十日原案可決の上答申

一四 諮問第十四號 換地處分に關する件

昭和四年九月十四日諮問 同日原案可決の上答申

一五 諮問第十五號 補償金の配當に關する件

特別都市計畫法第八條第一項の補償金の配當割合は、補償總指數を特別都市計畫法施行令第二十八條第一項に依る各權利の整理前指數に按分したる率に依らむとす、但し淺草區千束町二丁目二百七十七番ノ一、千束町三丁目五十番ノ三、六十四番、七十番ノ一、七十番ノ二、百七十九番ノ一、猿若町二丁目十五番、猿若町三丁目八番ノ二、二十番ノ三、山ノ宿町三十二番、山川町一番ノ三、聖天横町一番、田町一丁目十一番ノ四、十一番ノ十九、十一番ノ二十二、十一番ノ二十四、五十二番ノ一、六十四番、八十番ノ二、九十六番ノ三、象潟町九番ノ三、九番ノ五、十番ノ七、馬道町七丁目九番ノ三の土地に對する配當割合は整理前指數相當額と爲さむとす。

右昭和四年九月十四日諮問 同日原案可決の上答申

一六 諮問第十六號 換地處分に關する諮問に對し整理委員會の答申ありたる後土地又は土地に關する權利の讓渡等ありたる場合の處分方の件

昭和四年九月十四日諮問 同日原案可決の上答申



## 第二章 整理前土地の状況

本地區の總面積は十八萬七千七百六坪七合四勺にして、内宅地面積十四萬四千九百七坪二合四勺、公共用地面積四萬二千七百九十九坪五合なり、宅地面積及公共用地面積が地區總面積に對する割合は宅地七割七分二厘、公共用地二割二分八厘なり、宅地内借地面積は九萬八千三百八十六坪二合六勺にして、之が宅地面積に對する割合は六割七分九厘なり。

本地區に於ける街路及河川分布の状況を述べれば左の如し。

### 一 主要街路

地區の東部に在る聖天町電車通は幅員十間乃至十二間、南部地區界をなす通稱改正道路は幅員九間乃至十五間、前記電車通の北部吉野橋南詰より西北へ山谷堀に並行して新吉原大門方面に至る通稱日本堤は幅員四間乃至六間、淺草公園裏より日本堤に至る通稱千束通は幅員六間なり。

### 二 其他の街路

地區の西南端の地區界をなす電車通は幅員約八間乃至十二間、淺草觀世音堂裏より北上し、象潟警察署前を経て日本堤に至る馬道通は幅員約六間、田町一丁目五十七番ノ一地先より西へ地區の中部を千束町二丁目三百八十九番ノ一地先に至る街路は幅員四間乃至六間にして、其他は幅員狭少錯綜して街路系統不規則なり。

### 三 河川

山谷堀川は地區の東北界をなして日本堤に沿ふて流下し、待乳山附近に於て隅田川に注ぐ河川にして平均幅員六間半、深度三寸、上流は溝渠を爲し吉野橋下流は稍舟運の便あり、河心を地區界とす、

千束堀川は本地區の西北側を流れ本市田町下水唧筒場に入る溝渠にして、其の中心を地區界とす。

### 第三章 計畫の概要

#### 第一節 街路及小公園計畫

本地區に於ける特別都市計畫委員會議定の街路及小公園左の如し。

##### 第一 幹線街路

第五號線は市電千束町停留場方面より地區の西部を南下して補助線第七十六號を横切り、更に幹線第三十八號と交叉して淺草公園西側方面に至る幅員三十三米の街路にして新設せり、第二十三號線は地方橋西詰補助線第三十六號の終點より、日本堤を西走して三ノ輪方面に至る幅員二十二米の街路にして、在來日本堤を切下げ兩側に擴張せり(本線擴張に當り堤敷占用者立退きに付紛糾せり第四十三地區参照第三十一號線は地區の東端今戸橋より隅田川に並行南下し、新設言問橋西詰に至る幅員二十二米の街路にして、在來街路の兩側に擴張せり、第三十二號線は地區の東部を吉野橋より南下し、言問橋の西詰を過ぎ吾妻橋西詰方面に至る幅員二十五米の街路にして、在來電車を兩側に擴張せり、第三十八號線は言問橋より第三十八地區界を西走し、補助線第三十六號及幹線第五號と交叉して車坂町方面に至る幅員二十二米の街路にして、通稱改正街路を改修し、其の西半部は南側第三十八地區側に東半部は北側(本地區側)に擴張し且言問橋々臺敷を新設せり。

##### 第二 補助線街路

第十五號線は幹線第五號より千束町二丁目補助線第七十六號交叉點に於て分岐北上し、千束堀に於て補助線第三十號に合する幅員十五米の街路にして、主として在來街路の西側に擴張せり、第三十號線は地區の中央部を東西に走り、補助線第八十二號及第三十六號と交叉する幅員十五米の街路にして、補助線第八十二號以西は在來街路の兩側に、其の以東は補助線第三十六號迄を北側に擴張し其の他を新設せり、第三十六號線は地方橋西詰に於て幹線第二十三號の起點より南下し、山谷堀橋の西詰に至り屈折し、幹線第三十八號を経て第三十八地區吾妻橋方面に至る幅員二十二米の街路にして、山谷堀橋西詰南方一部は新設し其の他は在來街路の兩側に擴張せり、第七十六號線は地區の西南界をなす在來電車通の屈曲する點より起り、幹線第三十八號と補助線第三十號との中間を東走し、幹線第五號、補助線第八十二號、同第七十八號、同第三十六號及幹線第三十二號を横切り地區の東部待乳山公園南側に於て幹線第三十一號に終る幅員十一米の街路にして、補助線第三十六號の交叉點以西は在來街路の兩側に擴張し其の以東は新設せり、第七十八號線は地區の中央部に於て補助線第三十號を起點として分岐南下し、幹線第三十八號に至る幅員十一米の街路にして新設せり、第八十二號線は幹線第三十八號を起點として分岐北上し、補助線第七十六號、同第三十號及同第三十六號と交叉して第四十一地區に入る幅員十五米の街路にして、通稱千束通を西側に擴張せり、第八十三號線は地區の西南界をなす在來電車通中、補助線第七十六號分岐點を起點として南下し、幹線第三十八號と交叉して第三十八地區に入る幅員十一米の街路にして、在來街路の西側に擴張せり、補助線第七十九號線は補助線第三十六號の屈曲個所より山谷堀橋を経て第四十一地區に入る幅員十五米の街路にして、山谷堀西詰に至る短區間を本地區内に於て新設せり。

### 第三 區劃整理街路

地區の西南端に於て市電千束町停留場方面より入谷町に至る電車通を、千束堀川に覆蓋して街路に供

用し幅員を二十二米として存置したるの外、幅員一米二、三米、四米、五米五、六米、七米、八米、十  
一米、十三米にして土地の状況に應じ、且幹線と補助線との連絡に考慮を拂ひ、新設、擴築を爲し又在  
來街路にして其の儘利用し得るものは改修して之を存置せり。

千束堀川は本地區の西北側にありて本市田町下水唧筒場に流入する溝渠(菊屋橋を分水點とし南は新堀  
川となり、北は本溝渠となる)にして、當初の計畫に於ては本川に沿ふ在來街路を六米に改修し、對岸新  
吉原側は在來のまゝ存置し、第三十九地區側は六米となすの計畫なりしが、地元民並區劃整理委員會の  
陳情に基きて之を覆蓋し、區劃整理街路として利用せり、其の經緯左の如し。

千束堀川覆蓋に關しては既に大正十一年淺草區會に於ける決議に基き、之が覆蓋の意見書を當局に提  
出し居れり、然るに當時之を實現するに至らざりしが、今回區劃整理に依り新堀川覆蓋の計畫決したり  
と聞き、千束堀川も同時に覆蓋せらるゝものと思惟し居たるに、本川が前記の如き計畫なるは甚だ意外  
なりとし、大正十三年十二月本地區土地區劃整理委員會議長より、委員協議會の決議に基き覆蓋に關し  
て當局へ陳情し、越えて大正十四年二月淺草區會協議會の決議を以て同様の陳情書を提出せり、即ち本  
川の西側は幅員狹隘にして而も吉原に通ずる要路に當り、夜間の如きは人車の交通頻繁にして雜踏を極  
め常に幾多の事故を發生し、殊に失火非常時に際しては其の活動を阻害するの多大なる事、本川には常  
に悪水汚物を放流するが爲惡臭を發散し衛生、保健上甚だ憂慮すべき状態にある事、本川に接續する新  
堀川は已に覆蓋に決せられたるに本區域を除外せるは遺憾に堪へざる事、又同所の覆蓋に依りて地區の  
減歩を緩和し多大の利益を得る事等の理由に依り極力之が覆蓋實施を陳述せり、依て當局は慎重調査を  
遂げたる結果、其の必要を認めて同所を覆蓋するに決し、覆蓋の上部中央は五米半の歩道とし兩側を車  
道となし、宅地潰地充當用地六百八十三坪二合二勺(外に第三十九地區分三百三十坪六合六勺)を得たるを  
以て之を換地に充當せり、尙當該部分の覆蓋は幅員七米二、延長六百三十八米(第三十九地區光月橋より

道となし、宅地潰地充當用地六百八十三坪二合二勺(外に第三十九地區分三百三十坪六合六勺)を得たるを以て之を換地に充當せり、尙當該部分の覆蓋は幅員七米二、延長六百三十八米(第三十九地區光月橋より

第四十地區田町橋に至る間)其の覆蓋面積千四百六十四坪にして、大正十五年九月之れが工事に著手し昭和二年二月完了せり、之に要したる工事費は二十萬五千七百二十三圓二十五錢なり。

#### 第四 小公園

千束公園は千束町二丁目内に在りて、北は東京市千束尋常小學校に隣り、東西は各六米の區劃整理街路に接し、南は大部分民地に面するも一部十一米の補助線第七十六號に出入口を有す、其の面積六百七十一坪九合五勺にして新設なり、富士公園は象潟町内に在りて北は象潟警察署に面し、東は概ね民地に接するも、一部十一米の區劃整理街路を隔て、東京市富士尋常小學校に對し、西及南は各六米の區劃整理街路に接し、其の面積七百二十七坪九合一勺にして新設なり。

以上述べたる幹線、補助線及區劃整理街路の幅員、延長及面積を表示すれば左の如し。  
整理後街路延長面積調

區分	番號	幅員	延長	面積	備考
幹線	五	三三・〇〇 <sup>米</sup>	二八・九四 <sup>米</sup>	三、〇三三 <sup>坪</sup>	
	三三	三三・〇〇	二二・〇九	一、〇四三・一七	
	三三	三三・〇〇	一六・七六	一、三三二・六一	一部地區界
	三三	二五・〇〇	四六・二四	三、六八二・三三	同
	三三	三三・〇〇	一、一五二・〇四	四、二六五・〇五	地區界
計			二、三三〇・〇三	一三、四〇六・四	
	二五	一五・〇〇	一七三・二四	八三六・〇六	



合

計

二四、〇〇一・四

四、六四七・〇〇

## 第二節 換地設計

換地位置決定に關する件は大正十四年三月二十九日土地區劃整理委員會に附議し、同年十月二十二日より昭和二年五月三十日に至る八回に修正決議せしも、大正十五年十月十一日及昭和三年十月八日の二回に一部變更案を提出し、昭和三年十月八日全部議了せり、換地面積決定に關する件は大正十五年十月十一日及昭和二年三月二十九日の二回に分ちて委員會に附議し、其の都度各決議したるも、昭和三年十月八日一部面積變更案を提出し同日議了せり。

換地設計に因る宅地面積十一萬七千四百三十九坪二合五勺、公共用地面積七萬二百六十七坪四合九勺にして、宅地面積及公共用地面積が地區總面積に對する割合は宅地六割二分六厘、公共用地三割七分四厘なり、宅地の内借地面積は八萬四千五百三十四坪五合六勺にして、其の宅地面積に對する割合は七割二分なり、而して宅地が公共用地となりたる面積三萬四千四百六十五坪七合六勺、公共用地が宅地となりたる面積六千九百九十七坪七合七勺、其の差引潰地面積二萬七千四百六十七坪九合九勺、減歩率一割八分九厘なり。

本地區換地設計中本市田町下水唧筒場敷地並社會局事業用地開放の陳情ありて、換地位置面積決定遲延したり、其の経緯左の如し。

本市下水唧筒場敷地一部開放の件に付、大正十三年十二月田町二丁目町會並第四十地區土地區劃整理委員協議會の決議を以て委員會議長より、各陳情書を當局に提出せり、其の要旨に據れば本地區は幹線補助線の擴張は勿論區劃整理街路小公園新設等の爲、平均減歩率一割九分に達するを以て、唧筒場を開

放し換地に充當せられ度、殊に同敷地中舍宅敷地の約百坪は空地にして、且該舍宅は下水道完成の曉全く其の必要なきを以て、之れを開放せられ度と謂ふにあり、依て當局は調査したるに同公舎は當啣筒運轉用従事員を宿泊せしむると共に、下水道完成區域全般に對する管理従事員をも居住せしめ、非常時に於て遺憾なからしむる爲其の必要あるのみならず、將來此種の設備一層必要にして、之れが用地を求めつゝある際なるを以て、陳情書の趣旨は到底採用し難く、一部區劃整理街路擴張の爲に減步せらるゝは止むを得ざる旨を詳細説明し、委員協議會に於ても當局の意嚮を諒解するに至り、同啣筒場は其の儘存置することに決定せり、次に淺草區馬道町七丁目九番、東京市社會局用地開放の件に付ても亦前記同様の陳情を見たり、即ち該敷地は四百九十九坪二合一勺にして、本市に於て内務省より交付を受け、社會局事業用地として使用すべき豫定に在りたり、之に對し大正十三年十二月土地區劃整理委員協議會の決議を経て、同會議長より陳情書を當局に提出せり、其の要旨に依れば該用地が東京市に交付せらるゝ當時、其の地に多數の借地權設定しありしが、東京市に於て同敷地に公益事業の施設を爲すことの理由を以て、權利者之れを承諾し他に移轉を爲したるに、今日何等公益事業の施設を爲さず、却つて塵芥捨場同様の状態となし、市民に不快の念を與へ衛生上甚だ有害の状態に在り、尙該地には簡易宿泊所を設置するの計畫なるやに仄聞するも、斯くては同町の發展を阻害することゝなるが故に絶對反對なり、爰を以て前記用地を開放して換地に充當し、地區内の減步を緩和せられたしと謂ふにあり、従つて當局は之を調査したるに、本地區の平均減步一割八分九厘に達し、且小公園二箇所の新設計畫の爲、潰地充當用地の買收を必要とする事情にありたるを以て、該地を之が充當用地に使用する事として本問題の解決を見たり。

整理前後に於ける土地の状況を表示すれば左の如し。



整理前後に於ける土地の状況を表示すれば左の如し。

整理前後土地面積調

整理後	整理前	區分		宅地面積	内借地面積	對宅地面積の割合	公共用地面積	公共用地の面積に對する割合	潰地面積	潰地面積の面積に對する割合	潰地面積の面積より整理前の面積を控除したる補償面積
		總面積	面積								
		一八七、七〇六・七四 <sup>坪</sup>	一四、九〇七・二四 <sup>坪</sup>	〇・七七二	四二、七九・五〇 <sup>坪</sup>	〇・三三八	二七、四六七・九九 <sup>坪</sup>	〇・一八九五五五六	一一、九七七・二七 <sup>坪</sup>		
		八四、五四・五 <sup>坪</sup>	二七、四三九・二五 <sup>坪</sup>	〇・六六六	七〇、二七・四九 <sup>坪</sup>	〇・三七四					

備考 面積は實測面積なり、但し整理前借地面積は申告に據る。

宅地面積内譯

區分	整理前	整理後	國有地	公有地	計
民有地	二〇、八九六・五〇 <sup>坪</sup>	一〇一、六四二・二二	四、一四三・二六 <sup>坪</sup>	三二一・八四	一九、八六七・五八 <sup>坪</sup>
公有地	一五、四八五・二〇				一五、四八五・二〇
計	一四、九〇七・二四 <sup>坪</sup>	一一七、四三九・二五			一四、九〇七・二四 <sup>坪</sup>

整理前公共用地面積内譯

街路	國有	公有	民有	小計	河川運河	公園	共同物揚場	堤塘	溝渠	合計
	一九、六一・四五 <sup>坪</sup>	八、九〇七・〇〇 <sup>坪</sup>	三、七四八・〇三 <sup>坪</sup>	三、八六四・四七 <sup>坪</sup>	五五三・五〇 <sup>坪</sup>	二、四七五・二〇 <sup>坪</sup>	一 <sup>坪</sup>	一、九七七・九〇 <sup>坪</sup>	五、九四四・四三 <sup>坪</sup>	四三、七九九・五〇 <sup>坪</sup>

第四十地區 甲 整理地

整理後公共用地面積内譯

幹線	補助線	區劃整理線	小計	河川運河 在來	公園 在來	共同 物揚場 在來	堤塘	溝渠	合計
一三、六五・四 <sup>坪</sup>	一八、三六・八五 <sup>坪</sup>	三、七四・七四 <sup>坪</sup>	三、〇〇 <sup>坪</sup>	五五・五〇 <sup>坪</sup>	二、四四・三五 <sup>坪</sup>	一、三九・八六 <sup>坪</sup>	— <sup>坪</sup>	— <sup>坪</sup>	一、二二・七 <sup>坪</sup>
—	—	—	—	—	—	—	—	—	七、三六・〇九 <sup>坪</sup>

宅地が公共用地となりたる面積

幹線	補助線	區劃整理線	小計	河川運河	公園	共同 物揚場	堤塘	溝渠	合計
五、〇五・五 <sup>坪</sup>	九、二〇・五 <sup>坪</sup>	一八、八七・九 <sup>坪</sup>	三、〇六・七 <sup>坪</sup>	— <sup>坪</sup>	一、三六・〇 <sup>坪</sup>	— <sup>坪</sup>	— <sup>坪</sup>	— <sup>坪</sup>	三、四二・七 <sup>坪</sup>
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

公共用地が宅地となりたる面積

國有	公有	民有	小計	河川運河	公園	共同 物揚場	堤塘	溝渠	合計
四、〇〇・元 <sup>坪</sup>	四、五・五〇 <sup>坪</sup>	一、三二・二 <sup>坪</sup>	五、七五・〇 <sup>坪</sup>	— <sup>坪</sup>	一、九五・四 <sup>坪</sup>	— <sup>坪</sup>	五、八・三 <sup>坪</sup>	四、六・六 <sup>坪</sup>	六、九七・七 <sup>坪</sup>
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

備考 各公共用地の整理前面積に、宅地が公共用地となりたる面積を加へ、「公共用地が宅地となりたる面積」を減ずるも整理後面積に合致せざるは、公共用地間の用途變更を爲したるものあるに依る。

備考 各公共用地の整理前面積に「宅地が公共用地となりたる面積」を加へ、「公共用地が宅地となりたる面積」を減ずるも整理後面積に合致せざるは、公共用地間の用途變更を爲したるものあるに依る。

換地設計上地區を整理前後共十一ブロックに分ちたり、而して其の平均減歩率は二割八分九厘にして設計上支障ありたるを以て、潰地充當用として五千二百八十八坪八合八勺を買収せり、之が爲實際潰地面積は二萬二千二百四十九坪一合一勺に減少し、其の減歩率一割五分九厘に低下したり、然るに猶ブロック間に於ける減歩區々に亘りたるを以て、之が調節の爲ブロック間に宅地の移出入を行ひ換地の設計を了せり。

## 第四章 土地の評價

### 第一節 整理前土地の評價

整理前路線價指數並土地各筆平均坪當指數に關する件は大正十四年十月十三日土地區劃整理委員會に附議し、同年十二月十六日路線價指數のみを可決し、各筆平均坪當指數に付ては決定するに至らざりしが、昭和四年七月二日之を撤回すると同時に單獨に同委員會に附議し、同月三十日原案の通可決せり、而して其の後曩に決定したる路線價指數一部變更案を提出し、昭和四年七月三十日原案の通可決したり。本地區整理前の土地評價には路線價に對する奥行價格百分率中甲、乙及丙の三率を適用したり、其の路線價指數は土地の狀況に依り、二百九十個乃至千個と評定せり、即ち通稱千束通の内千束町二丁目百三十番ノ一地先改正道路より北へ同二百四十七番ノ一地先に至る間、及改正道路の内同所百三十番ノ一地先より同百三十五番ノ一地先に至る間を最高千個、千束町二丁目二百七十一番及二百七十四番地内の私道を最低二百九十個としたり、路線價指數に基き算出せる土地各筆平均坪當指數の最高は千百三十八

個、千束町二丁目百三十番ノ一にして最低は百八十八個、聖天横町二十八番なり。

宅地全筆の總指數は土地總指數五千七百七十七萬七千四百二十七個より、私道指數五千八個を控除したる五千七百七十七萬二千四百十九個にして、之を宅地總面積十四萬四千九百七坪二合四勺にて除したる平均坪當指數は三百九十四個なり。

借地權利價割合は國有寺地及市有墓地を九割、一般宅地を三割乃至三割五分と定めたり。

## 第二節 整理後土地の評價

整理後路線價指數に關する件は大正十五年十月十一日土地區劃整理委員會に附議し、整理後土地各筆平均坪當指數に關する件は大正十五年十月十一日及昭和二年三月二十九日の二回に分ち同委員會に附議したるに、何れも決定するに至らざりしを以て一旦兩諮問案を撤回し、昭和四年七月二日更に路線價指數に關する件並各筆平均坪當指數に關する件を各別に提案し、審議の結果何れも原案の通可決したり。

本地區整理後の土地評價には整理前同様路線價に對する奥行價格百分率中甲、乙及丙の三率を適用したり、其の路線價指數は土地整理の狀況に依り二百五十個乃至千八十五個と評定せり、即ち幹線第三十八號並補助線第八十二號中整理前千個の個所を最高千八十五個、地方今戸町内新設三米區劃整理路線を最低二百五十個としたり、路線價指數に基き算出せる土地各筆平均坪當指數の最高は千三百四個、従前最高の箇所にして、最低は二百三十三個、従前最低の箇所なり。

換地全筆の總指數は五千四百七十萬三千五百十個にして、之を換地總面積の十一萬七千四百三十九坪二合五勺にて除したる平均坪當指數は四百六十五個なり。

借地權利價割合は整理前同様國有寺地及市有墓地を九割、一般宅地を三割乃至三割五分と定めたり。

以上記述せる整理前後に於ける最高最低の路線價指數並坪當指數及宅地總平均坪當指數を表示すれば

借地権利割合は整理前同様國有寺地及市有墓地を九割、一般宅地を三割乃至三割五分と定めたり。  
 以上記述せる整理前後に於ける最高最低の路線價指數並坪當指數及宅地總平均坪當指數を表示すれば

左の如し。

整理前後路線價各筆坪當及宅地總平均坪當指數調

區分	整理前		整理後	
	指數	價格	指數	價格
路線價	最高 1,000 最低 290	500.00 145.00	最高 1,085 最低 250	542.50 125.00
各筆坪當	最高 1,260 最低 188	569.00 94.00	最高 1,304 最低 233	652.00 116.50
宅地總平均坪當	394	177.00	465	232.50

備考 指數單價は五十錢なり。

又整理前後に於ける所有權及借地權評定權利指數を掲ぐれば左の如し。

整理前後所有權借地權評定權利指數調

區分	整理前		整理後	
	指數	價格	指數	價格
所有權	40,755, 479 外 (内私道) 1,78, 619	10,377, 79.50 84, 39.50	40,187, 945	20,093, 97.50

第四十地區 甲 整理地

借地権	合計
一四、七三、三元	(内私道) 五、四八、八〇八 外 一、七八、六二九
七、三六、六四・五〇	二七、七四、四四・〇〇 二、五〇、〇〇 八四、三〇九・五〇
一四、五五、五五	五、四七、五〇
七、五七、七二・五〇	二七、三三、七五・〇〇

備考

- 一 整理前外書は潰地充當用買收地の指數及價格なり。
- 二 整理前の總指數潰地充當用買收地の指數を包含するものは五七、一七七、四二七個なり。
- 三 整理前宅地總指數私道の指數を包含せざるものは五七、一七二、四一九個なり。

## 第五章 換地處分

### 第一節 換地處分案の決定

土地各筆清算に關する件は昭和四年七月二日土地區劃整理委員會に諮問し、同年七月三十日原案の通可決し、換地處分に關する件及補償金の配當に關する件は昭和四年九月十四日同委員會に諮問し、即日原案通可決したるを以て、同月十六日内務大臣に本地區々劃整理設計、換地處分及土地補償金の配當方法決定に關する認可申請を爲し、同月十九日認可、同日内務省告示第三百六號を以て換地處分認可の告示あり、依て即日東京市告示第三百九十九號を以て右換地處分の件認可ありたるに付、土地補償金受領権利者は九月十九日より同月二十八日迄に東京市復興事業局第三出張所に申告書を提出すべき旨を告示

示あり、依て即日東京市告示第三百九十九號を以て右換地處分の件認可ありたるに付、土地補償金受領権利者は九月十九日より同月二十八日迄に東京市復興事業局第三出張所に申告書を提出すべき旨を告示

せり、而して本地區に於て換地處分を爲したる土地は所有地整理前八百九十一筆、整理後八百五十四筆、借地整理前二千四百五十六件、整理後二千四百九十一件なり、土地権利者は所有権者整理前三百一人、整理後三百人、借地権者整理前千七百七十八人、整理後千七百七十三人なり。

土地各筆清算に際しては整理前要清算土地評定権利指數五千五百四十四萬八千八百八個を以て、換地の評定権利指數五千四百七十萬三千五百十個を除したる比率〇・九八六五八八を整理前の各筆権利指數に乗じて整理前の比例権利指數を算出せり。

換地處分の結果左の如し。

一 清算を爲したるもの

換地 説明 書別	從前の土地			換地			計算上の清算			清算	
	面 積	所有地	借地	面 積	所有地	借地	徵收	交 付	徵收	交 付	
甲	比例権利指數 四一、三三、四一六個	一四、〇八二・九九 <sup>坪</sup>	七、七〇三・一一 <sup>坪</sup>	評定権利指數 四一、三三、四一六個	一七、四三九・三五 <sup>坪</sup>	六、七二二・九三 <sup>坪</sup>	六七三、五三三・五〇 <sup>円</sup>	四六七、一〇三・一〇〇 <sup>円</sup>	四九、七二七・五〇 <sup>円</sup>	四三、五三三・五〇 <sup>円</sup>	
		二〇、六四七・〇八一 <sup>円</sup>	二〇、六四七・〇八一 <sup>円</sup>		二〇、七三二、〇〇八・五〇 <sup>円</sup>	徵收 し得るもの と相殺 するもの	二二、〇四二、五三三・五〇 <sup>円</sup>	二二、〇四二、五三三・五〇 <sup>円</sup>			
乙	比例権利指數 一三、四〇九、三四八	九、〇四八・一五	—	評定権利指數 一三、四〇九、三四八	七、八二二・六三	—	一八四、五四八・五〇	二二九、四七六・〇〇	—	二〇、〇〇一、〇〇〇	
		六、七、四〇四・四〇	六、七、四〇四・四〇		六、六四九、七四六・五〇	徵收 し得るもの と相殺 するもの	—	—	二〇、〇〇一、〇〇〇	二〇、〇〇一、〇〇〇	





二 換地を交付せず清算金を交付したるもの

権利者	區町丁目	地番	地目	權利別	面積	指數	價格	備考
池野 幾雄 外一名	淺草區 千束町三丁目	一八二 ノ四	宅地	所有權	四〇・五〇 <sup>坪</sup>	二、五七 <sup>個</sup>	一、二九八・五〇 <sup>円</sup>	私設道路敷を公道とせり
同	同	一一二 ノ三	同	同	一三・〇五	四、九五	二、四九七・五〇	元下水敷を宅地に變更したる狭長なる土地にして一宅地をなさいるによる
同	同	一一三 ノ六	同	同	一三・二四	三、九八	一、九六四・〇〇	
同	同	一一三 ノ七	同	同	五・二〇	一、四八二	七四一・〇〇	
同	同	一一五 ノ六	同	同	四・七〇	一、五三	七六六・五〇	
東京市	新谷町	一ノ八	同	同	三三・〇五	四、七七	二、三六八・五〇	
同	同	一ノ九	同	同	三三・三三	三、六九八	一、八四九・〇〇	
同	同	一ノ一〇	同	同	五・二〇	一、四三〇	七五・〇〇	
同	同	一ノ一一	同	同	四・七〇	一、五三	七六六・五〇	
計	同	同	同	同	七・七	三、三六	二、六八・〇〇	
小林 權七	同	同	同	同	同	同	同	
同	千束町三丁目	一一〇 ノ三	同	同	一・五	一〇二	五〇・五〇	面積狭小なるによる

第四十地區 甲 整地

山中謙次	長井貞三	塚本要助	高須由三郎	谷謙太郎	田村彦七	吉水きく	川田森造	小熊恒太郎	沼尾コト	長谷川房次郎	池田寧	宮本仙之助
同同	同同	同同	同同	同同	同同	同同	同同	同同	同同	同同	同同	同同
三丁目		一丁目	二丁目	一丁目		千束町三丁目	田町一丁目	三丁目			一丁目	淺草區 千束町三丁目
一六四(4)	七五 ノ三(11)	八一 ノ三(1)	二六九 ノ一(3)	七五 ノ三(9)	一〇二 ノ一(6)	一六四(3)	一一 ノ六(42)	一一〇 ノ一(12)	一〇八 ノ二(3)	六五 ノ三(1)	五ノ六(6)	一〇三 ノ四
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	宅地
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	賃借權	所有權
三〇〇	四〇〇	一・五	二〇〇	四〇〇	三・五	一三・一〇	一〇〇	一〇・四	一五・三	四〇〇	一八・七	〇・九
一九五	四七	三三	二八	四七	七三	一・二六七	二〇	一・二九	一・六五六	四七	一・七六	四
一四七・五〇	二三・五〇	二一・五〇	一九・〇〇	二三・五〇	三五・五〇	六四・五〇	五〇〇	五九・五〇	八六・〇〇	二三・五〇	八三・〇〇	二〇・五〇
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	面積狭小なるによる 同一所有者の兩筆に 互る借地權の一方を 減じ他方を増歩換地 せるによる

第四十地區 甲 整地

鈴木利三郎	鈴木友吉	關野福次郎	森田清太郎	平田勇太郎	岡本末吉	菊地卯之助	高木彌市	齋藤隨賢	安藤マスノ	福島善松	間宮常吉	松浦壽
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
	一丁目	千束町三丁目	聖天町	田町一丁目	三丁目	一丁目	三丁目	一丁目		千束町三丁目	田町二丁目	
七五 ノ三 (1)	一ノ一 (33)	一ノ〇 一〇 (15)	四二 (4)	一ノ六 (41)	一ノ二 一 (5)	七五 ノ三 (2)	一六七 ノ二 (6)	五六 ノ一 (10)	一〇 ノ一 (14)	一五五 (3)	四 (9)	一一九 (4)
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
二・五〇	二・五	二・四〇	三・〇〇	一・四〇	三・四〇	一・五〇	四・〇〇	一・八二	四・九〇	三・八〇	一・七二	三・七二
三九	二七五	一・五五	二八六	一五八	一・四三	一三三	四・二六	一七四	五〇六	二九九	一・五〇一	七五
一四・五	一七・五	六六・〇〇	一四・〇〇	六九・〇〇	七五・五	八・五	二・一〇三・〇〇	八七・〇〇	二五三・〇〇	一四九・五	七五〇・五	三七・〇〇
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

山中謙次  
同  
三丁目  
一六四(4)  
同  
同  
三〇〇  
一九五  
一四・五  
同

鈴木與一郎	淺草區 千束町一丁目	一ノ一 (34)	宅地	賃借權	二・五〇	二九三	一四・五〇	同一所有者の兩筆に 互る借地權の一方を 減じ他方を増歩換地 せるによる
合計			所有權 賃借權	二二三・四 二七・四	二六、二五 二〇、二九	一三、〇七・五〇 一〇、一四・五〇		

六九四

三 換地を交付せず且清算金を交付せざりしもの

東京市所有地道路百八十六筆八千二百三十一坪三合九勺、用悪水路六十九筆二千八百六十八坪五合二勺、下水道敷三筆五十九坪四合六勺、内務省所有地道路十一筆四百十九坪六合二勺、堤塘一筆二十四坪六合七勺、合計一萬千六百三十三坪六合六勺。  
潰地充當用買收地東京市所有地四筆千三百四十六坪二合一勺、内務省所有地二十筆三千八百七十一坪六合二勺、合計五千二百七十七坪八合三勺。

三 所有權以外の權利又は處分の制限の指定を爲したるもの

- 一 既登記の所有權以外の權利の指定を爲したるもの地上權一件、地上權假登記二十五件、抵當權二百二十二件、抵當權假登記二十四件、賃借權一件、賃借權假登記二件あり。
- 二 處分の制限の指定を爲したるもの豫告登記一件、所有權假登記十七件、假差押一件、競賣申立一件あり。
- 三 未登記の所有權以外の權利の指定を爲したるもの賃借權二千四百二十七件あり。

備考 右の外係争中の賃借權二十一件、借地法第六條該當地四件あり。

第二節 清算金

第一 土地補償金を以て徵收清算金に充當

第一 土地補償金を以て徴收清算金に充當

本地區に於ける換地處分は昭和四年九月十九日內務大臣の認可あり、而して清算金徴收額は六十三萬五千五百三十七圓五十錢にして人員九百二十八人なり、又土地補償金は同年十月十五日補償審査會に於て百五十四萬八千九百五十錢人員二千二百五十七人と決定せられ同月十九日其の通知を受けたり、依て同月二十八日左記の通補償金を以て徴收清算金に充當處分を爲したり。

徴收清算金總額		補償金總額		補償金充當額		充當後徴收清算金		充當後交付補償金	
金	人員	金	人員	金	人員	金	人員	金	人員
六五、五七・五〇	九八	一、五四、〇九・五〇	二、五七	三八四、五〇・五〇	九四	一五二、〇七・〇〇	三九七	一、一六、五九・〇〇	一、六元

第二 換地處分に關する通知

換地處分に關する通知書は豫め換地説明書及補償金清算金臺帳に依り之を作成し置き、前項充當處分を爲したる後直に之が送達に著手し、市内居住者に對しては人夫を使用して之を送達し、其の他に對しては書留郵便を以て之を送達せり。

第三 清算金の徴收

本地區に於ける徴收清算金總額は六十三萬五千五百三十七圓五十錢なりしが、内三十八萬四千五百圓五十錢に對し土地補償金を以て充當したる結果、各納付義務者より直接徴收すべき清算金は差引二十五萬三千三十七圓にして人員三百九十七人なり。

右徴收人員三百九十七人中分納申請資格者即ち百圓以上納付すべきもの二百人なるも、内官公署分四件を除き差引百九十六人に對し分納申請期限を昭和四年十一月十五日とし、同年十月二十八日附を以て

換地處分に關する通知書と共に分納申請書用紙を送付し置きたる處、右期限内に申請書を提出したるもの八十三人にして資格者總數に對し僅に四割三分に過ぎざりしを以て、同年十一月二十日未提出者百十三人に對し更に同月三十日迄に提出方注意を促せし處、右期日迄に提出したるもの四十三人ありて結局申請者合計百二十六人となり、資格者總數に對し六割四分となりたり。

依て右申請書を審査の上、昭和四年十二月十六日分納許可の決定を爲し、同日各申請者に對し許可書を送付せり。

本地區の清算金徵收事務は淺草區役所に於て取扱ふものにして、昭和四年十一月より之が徵收を開始せり。

#### 第四 清算金の交付

本地區に於ける清算金は總額六十三萬五千五百三十七圓五十錢にして昭和四年十一月四日之が支拂を開始し、同六年三月末日迄に交付せし金額五十八萬八千百三十六圓なり。

### 第六章 土地補償金

#### 第一 補償金の算定並決定

本地區に於ける宅地減歩率は一割八分九厘五五五六なりしを以て、特別都市計畫法第八條に依り補償金の交付を要する爲、同法第五條の規定に依る補償金の配當割合を定むるに當り、幹線街路敷充當用として國に於て買收したる土地及小公園敷充當用として市に於て買收したる土地に對しては該土地の指數

して國に於て買收したる土地及小公園敷充當用として市に於て買收したる土地に對しては該土地の指數

相當額とし、其の他の土地に對しては補償總指數より前記指數を控除したる指數を各整理前の權利指數に按分するものとし、之を土地區劃整理委員會に諮問して決定せり。

次で前記配當割合に基き左表其の一に依り計算したる補償總指數を整理前各權利に配當して原案を作成の上昭和四年九月二十五日補償審査會に提出し、同年十月十五日原案の通決定せられ同月十九日其の旨通知を受けたり。

而して要交付補償金總額は百五十四萬八千九百五十圓五十錢にして人員二千二百五十七人なり。

補償金計算調書

(其の一)

摘		要	員
整理前宅地總面積			一一四、九〇七坪二四
整理後宅地總面積			一一七、四三九坪二五
潰地總面積			二七、四六七坪九九
整理前宅地總面積に對する潰地總面積の割合			〇・二八九五五五六
整理前宅地の一割に相當する面積			一四、四九〇坪七二
補償總面積			一一、九七七坪二七
整理前宅地總指數			五七、一七二、四九一個
同上平均坪當指數			三九四個
指數		單價	〇圓五〇

第四十地區 甲 整地

第四十地區 甲 整理地

整理前宅地坪當價格  
 補償總指數  
 補償金額

一九七圓〇〇  
 五、一三三、〇四四個  
 二、五五六、五三三圓〇〇

六九八

(其の二)

摘要		員數	
特別都市計畫法施行令 第二十九條該當中指數 相當額配當のもの	面積 整理前指數 補償指數 補償金額	面積 整理前指數 補償指數 補償金額	五、二二八坪八八 一、七二八、六一九個 一、七二八、六一九個 八六四、三〇九圓五〇 五五、四四三、八〇〇個 三、二八四、四二五個 六一個〇四二四四二 一九、三六一坪八九 二、九四二坪五一 四、七二二、〇一六個 二八八、二四四個 一四四、一二三圓〇〇 一、五四八、〇九〇圓五〇
特別都市計畫法施行令 第二十九條該當中按分 率に依り配當のもの	面積 整理前指數 補償指數 補償金額	面積 整理前指數 補償指數 補償金額	所有權 借地權
差引整理前宅地總指數	補償金額	補償金額	
差引補償總指數	補償金額	補償金額	
補償配當率 (整理前指數千個當)	補償金額	補償金額	
差引要交付	補償金額	補償金額	



第二 補償金國市負擔區分

本地區に於ける補償金國市負擔區分に關する計算は左記調査表の如く、國に於て三十三萬三百七十四圓(人員千六百六十四人)市に於て百二十一萬七千七百十六圓五十錢(人員五百九十三人)を負擔するものなり。

國市負擔區分調査表

(其の一)

面積	補償		面積	國負擔		面積	市負擔		面積	備考	
	金額	指數		金額	指數		金額	指數		整理前面積 平均坪	國又は公 有地指數
三、九七・二七 <sup>坪</sup>	二、五五、五三・〇〇 <sup>円</sup>	五、一三、〇四 <sup>圓</sup>	五、〇九・五六 <sup>坪</sup>	九九六、七三・〇〇 <sup>円</sup>	一、九九三、四六 <sup>圓</sup>	七、九七・七一 <sup>坪</sup>	一、五九、七九・〇〇 <sup>円</sup>	三、二九、五七 <sup>圓</sup>	一四、九七・二四 <sup>坪</sup>	三九 <sup>圓</sup>	六、四五、六五 <sup>圓</sup>
							五、一七、四九 <sup>圓</sup>				

(其の二)

國負擔	區分	種別	面積	補償		施行令第二十九條該當地	計	差引交付
				金額	指數			
國負擔	幹線	五、〇九・五六 <sup>坪</sup>	九九六、七三・〇〇 <sup>円</sup>	一、九九三、四六 <sup>圓</sup>	五、一七、四九 <sup>圓</sup>	六六、三五九・〇〇 <sup>円</sup>	三三〇、三七四・〇〇 <sup>円</sup>	

第四十地區 甲 整地

總計	市負擔			
	補助線	小公園	補助線の 内電氣事 業用地	計
二、九七七・七七	四、〇四一・四〇	一、三六七・〇一	二、四八九・三〇	七、九七九・七七
二、五五六、五三・〇〇	一、五九一、三二二	二七三、二四一・〇〇	九八〇、七八四	五、一三三、〇四四
一、四一、三三・〇〇	七九六、一五六・〇〇	五四六、四八二	四九〇、三九二・〇〇	二八八、二四四
八四、三九・五〇	三、二九、五七八	二七、六四五・五〇	二七、六四五・五〇	一七八、六六九
一、〇〇八、四三二・五〇	一七五、八六四	三〇、八〇八	一五、四〇四・〇〇	二、〇一六、八六三
一、四八八、〇六・五〇	四、八八二・五〇	一五〇、一四〇・五〇	一五、四〇四・〇〇	二、四七二、〇七三・五〇
	八九、七六五	五〇八、二八二	五〇八、二八二	一、二二七、七六・五〇
	一	一	一	三、〇九六、一八一
	八九、七六五	二六九、五四四・五〇	二七、六四五・五〇	一、二四三、四三三
	四、八八二・五〇	三、六九六・五〇	四六二、七四六・五〇	七五一、二七三・五〇
	六八四、一四五	七、三九五		
	二、四三三、四三三			

第三 各権利者に直接交付すべき補償金  
 要交付補償金總額は百四十五萬八千九百五十錢なりしが、内三十八萬四千五百圓五十錢を徴收清算  
 金に充當したる結果、各権利者に直接交付すべき補償金は百十六萬三千五百九十圓(人員千六百二十九人

要交付補償金總額は百四十五萬八千九百五十錢なりしが、内三十八萬四千五百圓五十錢を徴收清算金に充當したる結果、各權利者に直接交付すべき補償金は百十六萬三千五百九十圓(人員千六百二十九人

にして、之が國市負擔區分に依る内譯左表の如し。

區分	補償金決定額		充當額		直接交付額	
	補償金額	人員	補償金額	人員	補償金額	人員
國負	三三〇、七四・〇〇 <sup>円</sup>	一、六四	八〇、四九・〇〇 <sup>円</sup>	六一	二四九、八四・〇〇 <sup>円</sup>	一、〇九
市負	一、二七、七六・五〇	五九三	三〇四、〇〇・五〇	三三	九三、七〇・〇〇	五八
計	一、四八、〇九・五〇	二、二三七	三八四、五〇・五〇	九四	一、三三、五九・〇〇	一、六三

#### 第四 補償金の交付

本地區に於ける市負擔補償金總額百二十一萬七千七百十六圓五十錢中、徴收清算金に充當したる金額三十萬四千十圓五十錢は市會計規程に基き振替手續に依り昭和四年十二月二十八日支出し、直接交付額九十一萬三千七百六圓は同年十一月五日之が支拂を開始し、同六年三月末日迄に交付せし金額九十一萬二千二百四十八圓五十錢にして交付済合計百二十一萬六千二百五十九圓なり。

國負擔補償金總額三十三萬三百七十四圓中、徴收清算金に充當したる金額八萬四百九十圓は昭和四年十一月二十日淺草區役所に納付し、直接交付額二十四萬九千八百八十四圓は同月之が支拂を開始し、同六年三月末日迄に全部其の支拂を了したり。

## 第七章 登記及地價配賦

### 第一節 登記

#### 第一 代位登記

土地に關し代位登記を爲したる件數は土地表示更正及變更二十八件、土地名義人表示更正及變更十一件、土地分合筆百件、家督相續三件なり。

#### 第二 區劃整理登記

土地囑託筆數は整理前五百四十三筆、整理後七百一筆にして、建物囑託件數は要登記のもの千四百八十一件、現存を認め難きもの七十五件なり、囑託書を東京區裁判所二長町出張所に提出したるは昭和四年十二月五日にして、登記の完了は昭和五年一月十三日なり、而して登記の停止期間は換地處分告示の日即ち昭和四年九月十九日より約四箇月に亘れり。

### 第二節 地價配賦

#### 第一 地價配賦前の處理

本地區の土地區劃整理施行申告、工事著手届及工事完了届を厩橋稅務署長に提出したる年月日左の如し。

一	土地區劃整理施行申告	昭和四年六月十五日
一	工事著手届	同日
一	工事完了届	昭和四年十月四日